特245
360

昭和九年十月一日

大正、昭和七、八、九の三ケ年間に於ける

農産物價の高低と社會狀勢の比較調査

附錄　内閣資源局調査「米價と賃銀」

長野市職業紹介所

始

特245
360

目次

緒言……一
農業本來の實質……五
農産物及物價業月調査賃銀表……八
投機を戒む……一五
精算取引所相場……一七
精算取引表相場……一八
大正七、八、九年財政金融關係總計表……一九
統計蒐集の不能と社會狀勢……二二
長野縣各中等學校入學志願者調……二三
勸業(農工)銀行年賦借主別業態別貸付金調……二三
結論……二六
(附錄)米價と賃銀……二九

昭和九・一〇・一六 帝國圖書館

緒言

我國は今朝野を擧げて農村救濟の爲めに懸命の努力を拂はれつゝある、九州地方及四國の一部は旱魃の爲めに赤地千里一望皆莫茅白葦の悲悽に逢ふて居る、又我長野縣は連年に亘り繭價の暴落、農產物價の激落の爲めに極度の疲弊困憊に陷り、本縣農家は見るに忍びず、一度あやまらば路上に餓死のやむなき慘狀を呈し、食ふに食料なく馬鈴薯やフスマを常食として漸く露命を繼いで居ると云ふ有樣、又租稅借金は拂はなければならぬ、何程もがくとも納めるに金のない農家は或は强制處分によつて取立てられ明日の生活を脅かされて居る、斯ふした生活苦に農村は益々沒落の過程を辿つて居ると長野縣農會報は發表した而しながら天災であるなら兎に角單に價格が暴落したからと云ふ理由で救濟を叫ぶとなれば國家の秩序社會の安寧が果して維持出來るであらうか。職業紹介所は勞賃絕休中立の立場より客觀的狀勢を認識し公正なる主觀に訴へて之に善處する必要に迫られた爲め大正及昭和七、八、九、各三ヶ年に亘りて經濟狀態を調査することが勞賃需給及將來の社會狀態の推移を知る唯一の參考資料と考察した、特に大正七年を選び之が基準とした理由は

一、米穀對策に就いて正反對の政策が實施され又實施しつゝあること

一、米價賃銀其他に就いて本年と相類似したる點の有ること

一、最近の金融及外國貿易は大正八年の好景氣時代に相似たる點のあること

一、政府の農村救濟がどの程度まで其實績を擧げ得る哉

之等の數種理由のもとに各種計數を綜合し分解し更に複雜化せる社會機構尖銳化しつゝある人心の動向の緩和につとめんとしたのである、今大正七年に於ける社會狀勢を示せば

一月十四日　緬甸政府ハ特許ニ依ルノ外米ノ輸出ヲ禁止ス

廿八日　農商務省ハ津市ノ米穀仲買人岡半ノ米買占ニ對シ戒告ヲ發シタル結果、全國米穀取引所ニ動搖ヲ起シ東京、名古屋、桑名、津等ノ各定期取引所臨時休業ス

二月三日　農商務省令ヲ於テ米麥及麥粉ノ輸出ヲ特許制度トシ三月八日ヨリ施行ス

四月十五日　同第二二號第一條及第二條ヲ改正シ米麥及肥料ノ輸出ヲ制限ス
同　十六日　農商務省ハ取引所法第廿七條第三項ニ依リ全國三十八個所ノ期米取引所ニ十七日以後無期限ニ當中取引中止ヲ命ズ
同　廿三日　勅令ヲ以テ農商務省ニ臨時外米管理部ヲ設ケ外米ノ輸入販賣ヲナス
五月　六日　東京米穀取引所仲買人增田貫一外十名ニ米買占メノ行爲アリト認メ戒告及警告ヲ發ス
六月　十日　農商務省ハ肥料ヲ暴利取締品中ニ加フ
同　十三日　同　大豆粕買占メノ巨頭ト目サレシ神戸鈴木及森六商店ニ戒告ヲ發ス
同　十五日　取引所令ヲ改正シ小口落禁示セラレ七月一日ヨリ實施ス
同　十八日　信州上一番新絲先物千五百七十圓ノ初取引アリ（百斤）
同　廿五日　農商務省ハ午後八時名古屋及桑名ノ兩米穀取引所ニ對シ六、七、八月ノ三期限停止ヲ命ズ
同　全國白米小賣組合ニ命ジ標準小賣値段ノ公表ヲ禁ズ
同二十九日　台灣ニ大暴風雨アリ
同　三十日　岡山米穀取引所ハ農商務省ノ取調ベヲ受ケ七、八兩限ノ立會ヲ停止セラル
七月　一日　仁川定期米市場ハ當中限ノ立會ヲ停止
同　六日　大阪期米崩落後場四節ヨリ立會停止仲買委員連袂辭職ス
同　八日　期米崩落東京、神戸、熊本等ノ米穀取引所立會ヲ停止ス、本日以後全國期米市場ノ立會停止各地ニ及ブ
同　十二日　四國、山陰、山陽地方ヲ中心トシテ颱風襲來シ被害多シ期米正米奔騰ス
同　十七日　農商務省ハ全國地方長官ニ命ジ十石以上ノ在米ノ强制調査ヲ命ス
同　十八日　同　本日午後二時大阪堂島米穀取引所ニ七、八、九ノ三限立會無期停止ヲ命ズ
同　臨時外米管理部ハ朝鮮米管理ノ實施ヲ發表ス
同　廿三日　東京米穀取引所仲買人伊藤延次郎ノ買占行爲ニ對シ警告ヲ發ス
同　廿四日　農商務省ノ內訓ニヨリ正米市場ハ其標準相場ノ發表ヲ停止ス

同　三十日　東京期米市場混亂シ前場二節ヨリ休止ス、爾後各地ノ期米市場續々休止
八月　二日　文部省ハ大正八年度國定教科書平均三割ノ値上ヲ發表ス
同　三日　富山縣新川郡西水橋町漁師町ノ女房連本日夜大集團ヲ作リテ米屋及同豪農ヲ襲フ米騷動始マル
同　六日　農商務省又々岡半右衛門、岩崎清七、小暮藤五郎ノ三名ニ米買占メ行爲アリト警告ス
同　九日　本日以後全國各地ニ大暴動勃發シ出兵ヲ見ル所アリ
同　十三日　各地ノ米暴動ニ狼狽シ本日政府ハ米價調節資金一千万圓ノ支出ヲ決ス
米價暴騰ノ爲メ救濟資金トシテ宮中ヨリ三百万圓ノ下賜アリ
同　十四日　物價ノ昂騰ニ對シ政府ガ通貨收縮手段ヲ取ラズトノ非難アルニ對シ大藏省ハ辯解書ヲ發ス
同　本日午後十時米價騷動記事掲載差止メラル
同　十六日　本日緊急勅令ヲ以テ穀物收用令公布セラル
同　新聞記者團ノ抗議ニ會シ政府ハ米價騷動記事差止ノ一部ヲ解ク
同　三十日　農商務省ハ小倉久兵衛ノ小麥粉買占行爲ニ對シ警告ヲ發ス、小麥粉崩落ス
九月十八日　國民經經調査會官制公布セラル
同　廿一日　寺內首相辭表ヲ奉呈シ同日西園寺侯ニ內閣組織ノ命下リシモ廿五日拜辭ス
同　廿三日　米價暴騰シ東京期米市場混亂月末迄立會ヲ停止ス
同　廿七日　原內閣成立ス
同　廿八日　瓜哇及日本ニ對スル蘭貢米ノ輸出禁止セラレタル旨本日入電アリ
同　三十日　大正八年十月末日迄米及籾ノ輸入稅ヲ免除スル件勅令ヲ發セラル
十月　二一日　山本新農商ハ內地收用米買付ヲ打切ル旨發表ス
同　九日　獨逸ノ媾和申込ニ對シ米大統領ウ氏ハ第一回ノ回答ヲ發ス
同　三十日　土耳其聯合國ト休戰條約ヲ締結ス
十一月三日　墺匈國聯合國ト休戰條約ヲ締結ス

同　五　日　大阪堂島米穀取引所立會混亂シ中止
同　廿九日　全國蠶絲業大會ノ生絲繰短決議本日取消サル絲値崩落
十二月廿七日　農商務省ハ全國米穀取引所ニ對シ八年四月限ヨリ實施ノ豫定ヲ以テ台灣米及外國米受渡代用ヲ命ズ

以上の如き到れり盡せりの米穀對策も豫期に反し米穀は奔騰した、今大正七年一月の實數を百として其足取を見れば左の如し

		米	大麥	小麥	米麥肥料	日本銀行物價指數 日用品	總平均	生糸現物相場	賃銀	日用品	精算取引所相場	繭相場
大正七年一月	實數	円錢 二一、七七	円錢 一四、六〇	円錢 一七、四六	二五四	一六三	二一一	三三四、〇	円錢 一、三〇〇	円錢 八六	円錢 九、二四	円錢 一五六、〇〇	円錢 八、九〇	六七
	指數	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	
大正七年	實數	二九、三三	一八、〇四	二一、〇八	三三三	一九二	二四三	二五四、七	一、三五四	一、〇〇	一一、六六	一五六、〇〇	八、九〇	
	指數	一三四	一二三	一三〇	一二六	一一四	一一五	一一三	一〇四	一一六	一二六	一〇〇	一〇〇	
全八年	實數	四三、四三	二一、一一	二三、五四	三八二	二五九	三三一	三二二、一	二、〇九六	一、六二	一六、五三	一九七、五一	二二、一〇	
	指數	一九九	一四四	一三四	一五〇	一五五	一六一	一三九	一六一	一八八	一七八	一二六	一三五	
全九年	實數	三八、九六	一七、二八	二〇、四四	三七五	二八六	四一一	三四三、一	一、九〇九	一、五五	一一、三九	一七二、三四	六、〇〇	
	指數	一八三	一二八	一二七	一四七	一七〇	一九四	一五三	一四六	一八〇	一二三	一一〇	六七	

備考　本表及次表に用ひたる數字は農産物及物價調査表を參考

更に昭和七年に比較すれば隔世の感あり、更に政府の米價對策も大正七年一月に比し僅か四ポイントの騰貴を示したるに過ぎず反對に日用品の昂騰は兎に角特に甚し今昭和の分を示せば左の如し。

		米	大麥	小麥	米麥肥料	日本銀行物價指數 日用品	總平均	生糸現物相場	賃銀	日用品	精算取引所相場	繭相場
昭和七年	實數	円錢 一九、五九	円錢 七、〇八	円錢 一一、八一	一六四	一〇四	一〇〇	円錢 六八八	円錢 九〇	円錢 八、三八	円錢 一〇二、一三	円錢 三、三一
	指數	九〇	四八	六七	六四	六二	九四	五三	一〇四	七一	六五	三七
全八年	實數	二〇、四六	七、六一	一三、七七	一七六	一一九	一一三	一七九、四	九一	七、八四	九四、九〇	五、二二
	指數	九四	三二	七八	六九	七一	一〇一	五八	一〇五	八四	六〇	五八
全九年	實數	二二、六三	一〇、二一	一三、五三	二二五	一一三	二三八	一七六、〇	四七八	八、五四	一一八、七四	二、二五
	指數	一〇四	六九	七七	八四	六七	一一三	七八	五六	九二	七六	二五

農業本來の實質

農者國之本也とは支那の昔の學者の言ふ事なれど支那よりは我國の經濟機構が殊に此旨の適切なることを見る如何となれば支那では上流の人は食前方丈と云ふて鷄牛豚猪の美とか羅とか炙とか其他野菜にても種々の調理をなして所謂日食萬錢猶無所下箸もので此等の人間に於ては米を食ふこと一日に一二合に過ぎない、中流の人物でも矢張此割合で下級の人々に至つては或は麥、黍、唐蜀、其他腸に充つるに足るものは何にても食して必ずしも稻米に限らないが、我國民は悉く少くとも一日三四合の米を消費するは之れ通常の事であつて、米飯を以て生活の具とし魚鳥獸野菜の類は其附屬品と云ふも過言ではない。

其他の國ではパンを以て我國の米飯と同一の役目を爲して居る樣だが、富貴人は勿論貧乏人でも牛豚肉或はジャガ芋を多食して小麥で作つたパンは左程迄消費はしない。

故に西洋では風雨凍雹の禍有れば食料の缺乏に苦しむは必ずしも小麥の不作に因るのでなく、收穫物中何れにても關係がある支那では洪水の變有れば獨り米の爲めに饑饉を患ふるのではなく收穫物中のどれでも關係がある、我國では飲料をのぞいて殘り食料のみにて云ふも最も多く消費するのは米、飲料に就て云へば酒の如きは茶に比較して更に多量に消費する、故に我國では食品と云へば直に米を云ひ、收穫の不作と云へば直ちに米の不作を聯想する、麥、豆、其他の穀類の不作も勿論食料品に關係を生ずるが其物品の缺乏自らの爲めよりは寧ろ其品物の缺乏より米に及ぼす所の結果が多大である。之を要するに我國民は米にて生活するものにして破屋風日を蔽はず甕裡半錢なきも釜中一升の飯あれば一日老親妻子悲慘の顏を見るの患無し、是れに反したとへ鷄、豚の美あるも薯芋の膳有るも一椀の米飯を欠く時は窮乏の嘆を免れない、是れを以て我國では諸物貨中にて市價低昂の鋭敏なること米より甚しきはなく、又他の物價に其影響を及ぼすことも米より甚しきはなく、又農家に依つて其價格を左右することの出來ざることも亦米より甚しきものは無し。

近年は全國到る處豐年にして米價低落し他の貨物又之に從ひて低落し物賤幣重の勢を持し豐年饑饉を現出し今日に至つた。

農家にして重に米を生產するものは他の野菜を作り或は茶桑を作るものに比較すれば利を得ること極めて薄くして貧なるものは益々貧にして甚しきは租稅を納むること能はず、遂に公賣處分の慘に逢ひ一家數口困頓離散すること各地の新聞紙上歷々見

る處の如し。

けれども大都市の周邊に在る近郊の地に非ざれば多く野菜を產するも販路無く、又茶桑の加く俄に之れが植產を欲することを得ず、故に從來重に米を產する者は矢張り米を產せざるを得ない現狀である。

熱湯中に在る者妄りに身を動かすときは益々熱さを感ずるが故に已むを得ず手足を縮めて瞠然たること同樣の勢にて進退維に谷まるこは正に此事を謂はん。

以上は我國農村の現狀である。

終歲勞作して自ら一粒の米を口にする能はず妻子昏屬をして亦米を口にせしむる能はず、一家數口の者草根樹果によりて機械的に腸を突張り僅かに胃腸を胡麻化して日一日こ辛じて過すは實に憐む可きである。草根樹果を食して米を賣るも猶ほ租稅を納むる能はずして遂に父母妻子兄弟思ひ〳〵に異鄕の空を望み目的なく、旅費なく、悄然放浪の旅に上るこは之又識者の一考を煩はさゞるを得ざる事實である。而して又將來に着目して大に憂ふ可き事は農家貧にして農人痞せて田畑隨ふて痞せることも亦一考せざるを得ず。

貢稅は納めざる可からず。

各種の公費は出さざる可からず。

農具機具の壞れたるを修復せざる可からず。

家禽畜類を養はざる可からず。

妻子眷族を食せしめざる可からず。

衣せざる可からず。

自身も食はざる可からず。衣ざる可からず。

之等『可からず』は皆眞の不可にして少しも融通の付かざる者なり、そうでなければ他に融通の付く可きも『可からず』を見出して自ら融通を求めざる可からず、是に於て肥料を用ひずして收穫を利せんこする萬已むを得ざる最後の手段を試むるもの農家其數を知らず。然るに食はざれば痞せるは獨り人畜のみにあらずして田畑も然り、人畜の食は草殼なり、田畑の食は肥糞なり、田畑は無機物なるが故に一兩年は食はざるを得るも三年、五年、十年を經過すれば痞せざるを得ず、農政に留意するもの

之が救治の方法を求めざるに於ては全國の田畑は皆貧血病に陷りて赤地千里黃茅白葦の悲慘に逢ふは天の墮つるを慮り地の拆くを憂ふるに比し聊か根據有るものなり。

農家富裕にして租稅を納むることも出來公費を出すことも出來、肥料を用ふることも出來、最新の農學を利用して漸次に改革の計を施すことを得んも、農業なるものは動かす可からざる土地こ變ず可からざる氣候こを相手こして仕事をなすが故に商工業の如く變化自在なるを得ずして主に老農自然の經驗に依り事に從ふものにして、彼の有名なるマダムスミスがビンの製造より發見したる分業の利益の如きは實行することこ最も離きものなり。例へば新潟縣は土地米に宜しこ云ふて米のみを作りて一切他の野菜穀物は作らずして之を他縣に仰ぐが如きことは爲し得可きに非ず、土壤に適不適あり、季節に當不當有り、大都市近郊の地にありては肥料を得る事容易にして販路を得ることも亦容易なるが故に米麥の如き必要にして薄利の物を作らずして贅澤で高價の物を作ることを得可し。一月胡瓜茄子を採り十二月竹の子を掘るに於ては朝夕千萬の客を送迎する料理店爭ふて之を購ふて其利益は皆田畑に歸り來りて復た他の珍奇の野菜に變じ斯くの如くして輪作已むこと無く以て自家の財布を膨脹するを得るも遠村僻地に在りては初めより驕奢を目的にするの手掛り無きが故に漠然六千万人日用の食を目當にして矢張薄利の米麥を作らざるを得ず。

之を要するに工業は造化を驅役して益を得るものなるも農業に至りては唯造化に順從にして利を得るに過ぎざるのみ、然れども貨幣は百般事物の資源なるが故に富裕なる人々は學術ある人を聘し幾分か造化を驅役して老農自然の實地に得ざりし所の利益を攫むことを得可し。若し其れ四五反の地を以て其生計を支へ得るが如き農家に在つては唯だ死せざるを幸こするのみ、嗚呼自ら痞せ衰へんこする者何を以て土地を肥すことを得ん。自ら死せんこするもの何を以て造化を役することを得ん。嗚呼農家の病を醫する者は農會か產業組合か或は府縣か。

我天子は聖明なり我宰相大臣は勤敏なり、現在農家の所謂朝不圖夕の極度に到りたる者の爲めには固より考慮する處有り、現に救濟の名目の爲めに毎年數億の支出を見る、兎に角農は國の本なれば之を組織する農民の生計は廟堂にあるも地方廳にあるも決して輕忽にする理なし。然れども九重の高きは天よりも高く廟謨の深きは淵よりも深し、且つ我國の政務は軍國多事こ言ふ可く舊規を去りて新圖に就き汚穢の過去を出でて靈治の將來に入るの時なれば內治に外交に紛々擾々實に多忙限りなきなり。

農家諸君僻陬茅屋の中に居て目を開き耳を欹たて手を擧げ足を擴げて慈恩の命令の下るを竢つも恐くは明日來月の事には參ら

ざるなり。且つ外より來る救恤は畢竟當てにす可からず、他動的の効驗を頼みとするは自動的の結果を望むの直截迅速なるに若かず。農家の憂患は農家自身にて排除するに若かず。地方自治の精神に於て實に斯く有度きなり。然るに天下何事をなすにも先き立つものは資金なり、此資金ありと雖も苟も公衆を利するの考慮無く他人を憐む感情無きときは我門前に行斃れ我墻下に凍死するも顧みずして寧ろ自家の飼猫の胃病を憐れみて正身の魚肉を投與すること是れ利己心に富める多數の政策なり。方針なり、若し天下の富ある人々が皆悉く此政策を執り此方針に循ふことせば何事もなす可からずして社會は寸歩も進むことを得ざるなり。果して然るときは社會は隨然たる一凝塊と成らんのみ、思ふに農家、富裕なる農家にして少しは公衆と云ふ觀念を腦裡に蓄へて同郷上邑の利害を少しは其考慮に掛くる連中も必ずしも之れ無きにはあらざる可し、同郡同村中にて數町の土地疇せ衰へるときは即ち同村同郡の損失にして到底全國の損失となる理なり。

農家有志中少く眼を開いて公益に注目し相共に盡力して幾分の資を出し、或は老農自然の經驗を利用し或は最新の化學を應用し學者の教示を受け土地の宜しきを計り、販路の便を考へ或は從來の作物を廢し他の物を作り、或は從來の作物に就て漸次に改良を加へ、或は廉價の肥料を用ひて充分の効を得る等種々利益を増殖するの手段有る可し、苟も誠心以て事に從ふ時は何の利か興す可からざる理あらんや。憂ふる處は目前姑息の利に安んじて改進の氣を失ふにあり　乞ふ大正七、八、九年の歐洲大戦後に於ける農家の好景氣に心醉せる狀を一瞥せよ。

農産物及物價累月調査賃銀表

	米	大麦	小麦	米麦	肥料	日用品	総平均	生糸現物相場	種別	大正七年七月	大正七年十二月
	円銭	円銭	円銭	日本銀行物價指數				円銭		円銭	円銭
大正七年一月	二一、七五	一四、六〇	一七、四六	二五四	一六七	二二一	二二四、〇	一、五五三、〇〇	農作日雇男	五〇	六〇
二月	二二、一八	一七、二五	二一、八五	二九〇	一八五	二二一	二二二、八	一、五五九、〇〇	同女	四〇	五〇
三月	二四、八〇	一八、二〇	二一、一六	三一三	一九五	二二五	二二八、七	一、三三四、五〇	人夫	八五	八〇
四月	二五、五八	一八、四〇	二二、一五	三〇三	一九八	二二六	二二四、三	一、三八八、〇〇	大工	一〇〇	一二〇
五月	二六、三三	一七、八〇	二二、三〇	二八三	一九四	二二四	二二四、八	一、四八〇、五〇	左官	一〇〇	一二〇
六月	二六、七六	一七、五〇	二二、七〇	二八五	一九七	二二九	二二五、三	一、四四六、〇〇	石工	一〇五	一二〇
七月	二七、〇〇	一六、一〇	二〇、六六	二〇〇	一九二	二二五	二二二、二	一、五五三、〇〇	屋根職	九〇	一一〇
八月	二五、五〇	一五、二五	二〇、二五	二〇〇	二〇七	二二六	二二七、五	一、五五九、〇〇	植木職	一二〇	一四〇
九月	二六、八二	一九、二五	二二、六六	二二四	二〇七	二二七	二二七、八	一、五二九、〇〇	平均	八六	一〇〇
十月	二七、四三	一九、一六	二二、六六	二二二	二〇五	二二七	二二八、二	一、五七四、〇〇			
十一月	二七、四三	二〇、一〇	二二、〇六	二二四	二〇五	二二七	二二七、四	一、四九三、〇〇			
十二月	二九、三五	一八、〇四	二一、〇八	二二八	一九一	二二四	二二四、七	一、五五四、六六			
平均	二七、二五	一七、九六	二一、六六	二二九	二〇八	二二七	二二七、九	一、四四二、〇〇	農作日雇男	一三〇	一五〇
八年一月	二六、七五	一八、六六	二一、六六	二二九	二〇八	二二八	二二七、九	一、五一九、〇〇	同女	八〇	一〇〇
二月	二一、六六	一八、一六	二〇、一六	二二一	二〇八	二二一	二二五、九	一、四四四、〇〇	人夫	一二〇	一五〇
三月	二二、五八	一八、六六	二一、六六	二二八	二〇八	二二四	二二六、五	一、五五四、〇〇	大工	一五〇	一八〇
四月	二六、三五	一八、四五	二〇、〇〇	二二七	二〇九	二二七	二二七、九	一、五七四、〇〇	左官	一五〇	一八〇
五月	二〇、三〇	二一、三五	二〇、〇〇	二二〇	二〇七	二二七	二二七、二	一、四七四、〇〇	石工	一五〇	一八〇
六月	二〇、三〇	二一、〇〇	二〇、〇〇	二二〇	二〇七	二二五	二二五、四	一、三九九、〇〇	屋根職	一五〇	一八〇
七月	二〇、〇〇	二一、二六	二二、〇〇	二二〇	二〇七	二二四	二二四、六	一、二一三、〇〇	植木職	一七〇	一八〇
八月	二〇、六六	二〇、六六	二二、一六	二二九	二〇七	二二二	二二二、九	一、二九六、〇〇	平均	一三七	一六二
九月	二〇、五〇	二〇、六六	二四、五〇	二二九	二〇七	二二二	二二二、一	一、三二九、〇〇			
十月	二〇、三〇	二一、〇〇	二二、〇〇	二二九	二〇七	二二二	二二二、一	一、二〇一、〇〇			
十一月	二一、三三	二一、二五	二六、六六	二二九	二〇七	二二二	二二二、一	一、二〇一、〇〇			
十二月	二一、一一	二一、四五	二四、五四	二二九	二〇七	二二四	二二八、〇	一、六八〇、〇〇	農作日雇	一五〇	一三〇
平均	二四、四三	二一、七六	二二、三三	二二九	二〇七	二二四	二二七、一	手合セナシ	同女	一〇〇	八〇
九年一月	二二、一七	二一、六〇	二四、三五	二二九	二〇七	二二四	二二八、〇	一、三二八、〇〇	人夫	一八〇	一三〇
二月	二五、〇八	二四、〇〇	二四、五〇	二二九	二〇七	二二四	二二九、七	二、五六九、〇〇	大工	二〇〇	一八〇
三月	二五、一三	二四、六六	二四、五〇	二二九	二〇七	二二四	二二九、七	一、八六六、〇〇	左官	二〇〇	一八〇
四月	二八、七〇	二三、〇〇	二二、五〇	二二九	二〇七	二二四	二二九、七		石工	二〇〇	一八〇

農産物及物價累月調査賃銀表

備考
一、米、大麥は長野市樋澤商店の農家よりの購入價格にして一ケ月上旬、中旬、下旬の平均相場とす
一、日本銀行物價指數は明治三十三年十月を基準百としたるものにして
一、米麥は各指數の和を平均したるものとす
二、肥料は肥料類、魚肥、油〆粕の和を平均したるものとす
三、日用品は砂糖、製茶、鹽、味噌、菜油、木炭、薪の和を平均したるものとす
一、生糸相場は横濱市場機械太糸上百斤建年中平均ヲ示ス
一、賃銀は長野市を中心としたるものを記載せり

月	米（一石）	大麥（一石）	小麥（一石）	日本銀行物價指數 米麥	肥料	日用品	總平均	生糸現物相場	昭和七年 七月	昭和七年 十二月
	円錢	円錢	円錢							
昭和七年一月	二〇、五〇	八、五〇	一〇、〇〇	一八三	一〇三	一〇三	一五八、七	六七三 円		
二月	二一、七五	八、五〇	一一、〇〇	一八七	一〇四	一〇三	一六一、四	六五五		
三月	一九、七五	七、七五	一一、五〇	一七四	一〇三	一〇三	一五八、五	六一八	五五錢	
四月	一九、七五	七、〇〇	一〇、五〇	一五七	九五	一〇三	一五四、一	五五四	四〇	
五月	二〇、二五	六、五〇	一〇、〇〇	一四九	九〇	一九八	一五〇、三	四九三	六〇	
六月	一九、七五	五、四〇	九、七五	一五二	九〇	一九二	一四六、四	大左工	八〇	
七月	一九、〇〇	五、七五	一〇、七五	一五三	八九	一九三	一四七、七	五四二官	九〇	
八月	一九、〇六	六、二七	一二、七五	一五二	九八	一九七	一四五、八	七六三石工	一二〇	
九月	一九、六〇	七、〇〇	一四、〇〇	一五九	一一四	二〇三	一四七、四	九五三屋根職	一五〇	
九月	一八、〇三	七、三〇	一四、〇〇	一五〇	一一〇	二〇五	一六九、一	八九〇植木職	一三〇	
十月	一八、五〇	七、五〇	一四、〇〇	一六九	一一八	二〇九	一四七、九	九一〇平均	九〇	
十一月	一八、五〇	七、五〇	一四、〇〇	一六〇	一一〇	二一四	一八四、六	六九八		
十二月	一九、二五	七、五〇	一四、五〇	一六九	一一八	二〇〇	一六一、〇	六九〇		
十二月平均	一九、五九	七、〇八	一二、八一	一六四	一一四	二〇五	一八五、〇	七七〇		
八年一月	二一、三三	八、五〇	一二、〇〇	一八八	一二八	二一三	一九九、六	六八四		
二月	二〇、五〇	七、五〇	一四、〇〇	一七二	一二五	二一三	一七七、四	六五五 農作日雇男	五五	
三月	二一、一六	六、八六	一四、〇〇	一六四	一二〇	二一二	一七六、二	七二八 同女	四〇	
四月	二〇、七〇	六、七五	一四、二五	一六七	一二八	二一三	一七六、八	七二六 人夫	六〇	
五月	二〇、八〇	七、五〇	一四、二五	一六七	一二四	二一四	一七九、六	七九〇 大工	九〇	
六月	二〇、五〇	七、七五	一三、六〇	一七七	一二七	二一四	一八二、一	九五四 左官	九〇	
七月	一九、七五	七、七五	一三、五〇	一七八	一二五	二一四	一八〇、〇	八五七 石工	一二〇	
八月	一九、〇〇	七、九〇	一三、五〇	一七七	一二八	二一一	一八二、四	八五一 屋根職	一四五	
九月	一九、七五	八、一五	一三、一五	一八三	一二五	二一〇	一八〇、四	七一三 植木職	一三〇	
十月	二一、一五	八、三五	一三、一〇	一九四	一二八	二一一	一七八、七	五五五 平均	九一	
十一月	一九、七〇	八、一五	一三、五〇	一九二	一二三	二一二	一七五、五	五五九		
十二月	二〇、七五	七、六一	一三、七五	一七六	一二九	二一三	一七九、四	五五八		
平均	二〇、四六	七、七一	一三、七五	一七五	一二三	二一二	一七五、五	五八三		
九年一月	二〇、八三	八、六五	一三、八〇	一七九	一二二	二一二	一七六、九	六四三		
二月	二一、〇八	九、五六	一四、〇〇	二〇八	一二二	二一三	一七六、五	五七〇 農作日雇男	六五	
三月	二〇、六三	一〇、五〇	一四、二五	二一〇	一二二	二一〇	一七六、九	五三八 同女	四五	
四月	二一、〇六	一〇、七〇	一三、七〇	二一三	一二二	二一〇	一七六、九	五三八 同	四五	

五	月	二四・〇	二一・四	一四・〇〇	二二・六	二二	二二二	一六・三	四三	本横屋石左大人			
六	月	二四・四〇	二一・〇	一四・〇〇	二二・一	四九	二二二	一四・四	四四				
七	月	二四・三〇	九・〇〇	二二・〇〇	二二〇	四四	二二二	一四・一	四四		木根		
八	月	二四・三〇	一〇・〇〇	二二・四〇	二二八	二二二	二二二	一六・九	一				
平	均	二二・六四	一〇・二二	一四・四四	二二四	二二二	二二八	一六・〇	四八	均職職工官工夫			
										一一一一一一一	一一一一一一一	一一一一一一一	一一一一一一一
										一一五〇〇〇	一一二〇〇〇	一〇〇〇〇〇	七〇〇〇〇〇
										九三七			

備考　一、昭和年度肥料指数は硫酸安母尼亞魚肥油メ粕の和の平均とす

更に日用品の騰貴の趨勢を示せば左の如し。

日用品比較調査

		大正七年 三月	六月	九月	十二月	大正八年 三月	六月	九月	十二月	大正九年 三月	六月	九月	十二月
清酒	白(一石)	二六〇〇円	二八〇〇円	二四〇〇円	二六〇〇円	二六〇〇円	二八〇〇円	三〇〇〇円	三二〇〇円	三二〇〇円	四二〇〇円	四六〇〇円	四八〇〇円
和大糖	赤(一石)	一八〇〇	二〇〇〇	二四〇〇	二二〇〇	一八〇〇	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇	一八〇〇	二四〇〇	二四〇〇
	白(百斤)	二四〇〇	二四〇〇	二八〇〇	二八〇〇	二八〇〇	二八〇〇	二八〇〇	二八〇〇	二八〇〇	二八〇〇	二八〇〇	二八〇〇
メリケン粉	(一袋)	二六〇	二八〇	二八〇	二六〇	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇
醤味	味噌(十貫)	一六〇〇	一六〇〇	一六〇〇	一七〇〇	一八〇〇	一八〇〇	一八〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
	油(一斗)	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇
茶	(一斤)	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
砂糖	(八十斤)	一二〇〇	一二〇〇	一二〇〇	一二〇〇	一二〇〇	一二〇〇	一二〇〇	一二〇〇	一二〇〇	一二〇〇	一二〇〇	一二〇〇
薪	(百貫匁)	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇

		昭和七年 三月	六月	九月	十二月	昭和八年 三月	六月	九月	十二月	昭和九年 三月	六月	九月	十二月
清酒	白(一石)	二二〇〇円	二二〇〇円	二二〇〇円	二二〇〇円	二二〇〇円	二二〇〇円	二二〇〇円	二二〇〇円	二二〇〇円	二二〇〇円		
和大糖	赤(一石)	二二〇〇	二〇〇〇	一〇〇〇	二二〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇	二〇〇〇		
	白(百斤)	二四〇〇	二二〇〇	二六〇〇	二六〇〇	二六〇〇	二六〇〇	二八〇〇	二八〇〇	二八〇〇	二八〇〇		
メリケン粉	(一袋)	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇	二二〇		
醤味	味噌(十貫)	一六〇〇	一六〇〇	一六〇〇	一六〇〇	一六〇〇	一六〇〇	一六〇〇	一六〇〇	一六〇〇	一六〇〇		
	油(一斗)	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇		
茶	(一斤)	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇		
砂糖	(八十斤)	一二〇〇	一二〇〇	一二〇〇	一二〇〇	一二〇〇	一二〇〇	一二〇〇	一二〇〇	一二〇〇	一二〇〇		
薪	(百貫匁)	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇		
木炭	(十貫匁)	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇		
酒	(一斗)	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇		
平均		二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇	二二〇〇		

日用品比較調査

更に農家の主要産物たる価値を比較調査すれば

年次	大正 春繭相場	大正 夏秋繭相場	昭和 春繭相場	昭和 夏秋繭相場
	平均	平均	平均	平均
	指數	指數	指數	指數
七年	八、九〇円錢	八、九〇円錢	三、三三円錢	四、一九円錢
八年	一二、四〇	一一、八〇	五、七四	四、六九
九年	七、七〇	四、三〇	二、五〇	六、〇〇
	三七	一〇〇	三、三一円錢	三、三一円錢
	五八	一三五	五、二一	五、二一
	二五	六七	二、二五	二、二五

備考　本表は長野市農家五戸の賣却したるものゝ平均を示せり

書して此に到れば東京神田川正米問屋寺井商店へ越中の走米が入荷し四等石三十一圓、農林種不合格米二十九圓八拾錢並米不合格二十九圓の祝儀商内成立し四等は昨年より八圓高、出廻りは十日間遲れ品質乾燥不充分、新米の先約は弗々出來て居るが越中水島三等九月二十日積三十圓越後三等十月十日積二十六圓七十錢、本年の天候の不順は減收を免れざるゝ共に調節の如何にかゝわらず米價は漸く高價に騰ふものゝ推定せらる。（昭和九年九月十八日）

尙參考の爲めに長野地方に於ける農村時局匡救土木工事賃銀は左の如し。

昭和九年農村及失救工事賃銀調

	坂城町		屋代町		稻荷山町		篠ノ井町		柏原村		鬼無里村		平均	
	最高	最低	普通	最高	最低	普通	最高	最低	普通	最高	最低	普通	最高	最低	普通
土工	一〇〇錢	四〇	八〇	一二〇	一〇〇	八〇	八〇	六〇	七〇	一二〇	六〇	八〇	一二〇	四〇	八〇
人夫男	一〇〇	四〇	八〇	九〇	四〇	八〇	六〇	七〇	六〇	一二〇	六〇	一二〇	一二〇	四〇	八〇
同女	四〇	三〇	三五	—	—	—	—	五五	四〇	五五	四〇	四五	五五	三〇	四五
石工	一二〇	一〇	一二〇	一二〇	一〇〇	一二〇	一二〇	一〇〇	一二〇	一〇〇	一二〇	一〇〇	一二〇	一〇〇	一二〇
鳶職	一二〇	一二〇	—	—	—	—	一二〇	一〇〇	一二〇	一二〇	一二〇	一二〇	一二〇	一〇〇	一二〇
大工	—	—	—	一二〇	八〇	一〇〇	一二〇	一〇〇	一二〇	一二〇	一〇〇	一二〇	一二〇	一〇〇	一二〇

備考　本表は各町村長の回答を得たるもの

投機を戒む

金あれば尙增さんとするは人情而かも炬を踰え手段を選ばざるは敢へて異とするに足らざる普通事である。蛾昆蟲の燈火に向ふが如く燈火大なれば蟲の數亦多し、投機の大勢も又此の如し、人動もすれば曰く人は萬物の靈長と而して飛んで火に入る夏の蟲たる行爲に出で世を害し己れを亡す其愚憐む可く恐る可し。

抑も投機は其正當の範圍に於ては收穫の豐凶貨物現在の供給運般費の增減、金利及爲替相場の高低、政況の如何等を鑑考し未來の需要供給に於ける變動を豫期し以て賣買取引に從事するものにして、廣く之を論ずれば人間の萬事は皆之に類する處の豫期行爲である。故に總じて之を解すれば直接の需要を充すに非ずして其用を未來に期するものは悉く投機の範圍に屬し、彼の小賣の如きも時に或は一種の投機事業と云ふを得べし、何となれば小賣は之を卸し若しくは生產者より購買し之を消費者に販賣するを業とする者なれば其注文若しくは店頭列品の外多分に倉庫品を仕入るゝことあり、卸賣の如き最も然りとす。而して國家事業の大部分に於ても亦一種の投機的豫期事業に屬するものゝ如し、夫れ國家が大兵を養ふは目下の生存の必要あるに非ずして未來の萬一を慮るに在り、教育令を布くは遠大の目的を存するにあり、治罪の道を講じ法廷の構成を完備するは不道を將來に防がんとするにあり、其他衛生、警察等の如き皆豫防豫期の行爲に屬す。是れ國家經營上當然の事豈怪むに足らん、又學術上に於ても法律、經濟、財政等多く國家前途の發達伸張を論究するものを稱し投機的學問 speculative science と云ふ。而して人間に最も有益なる發明發見の如きも目下直接の使用上に必要ならざる未來の便益の爲め刻苦勉勵之を爲すものなり。果して然らば偶發の間に得たるものは暫く之を措き石器時代より今日の鋼鐵時代に導きしものも亦投機の功と云ふべきなり。

然れども此の如き廣大無邊の豫期的事業は此處には云はず、此處に所謂投機は普通貨物證券の賣買に關する見込賣買を云ふものにして精密の觀測を用ひ正當の範圍に於て正實に之を行ふに於ては需給を平均し大に市場を調和し公衆に利便を與へ併せて當事者の利益となるものなり。然るに投機者流の市場に入るや其意に以爲らく元來物價なるものは上下兩動を爲すの外なし。云々の情況は我に利あり云々の事情は我に不利なり、故に道理を以て事情を分析し資力を以て之に當らば何ぞ恐るゝに足らんと世人の多く損失に陷るものは其敏捷の技倆を欠くに在り、我何ぞ此技倆ありと慾心勃々禁ず可からず、遂に不測の淵に陷るもの皆是れなり。然りと雖も凡そ天下の事情を觀察するに當り其已れに利ある點に於ては之を重んじ、已れに不利なるは之を

輕んずるは人情の常にして『彼の敵は常に其最上の策に出づ可く障害は最大たるを期す可し』との格言訓戒は殆んど投機場裡に於ては忘却せられ、自家收利の一方のみを以て斷定を下し又其裏面を顧みるに遑あらざれば原因の比較に精密ならず。若し過去に於て或る事情の原因たりし現象と類似する處の現象を視るに於ては一念忽過去同樣の結果を生ず可しとし、今回に於ては曩に存せし原因以外に或る狀態の存するありて新現象の結果は已に前日の如くならざるを悟らず、上騰を豫期して下落に遭遇し下落を豫期して上騰に遭遇するなきを保せず。是れ投機市場に於て倒產者の多き所以もとより怪むに足らず。殊に此場裡に入るものは概ね壯年血氣にして多少理想に富むも經驗に乏しく資力に富むも信用に乏しく、而して雄を老成の輩と爭はざるを得ず、順序より之を視れば既に同等の競爭と云ふを得ず、故に其失敗の聲を聞くは常に此徒に多し、若し夫れ投機者として成功を得るは廣大なる觀察力を有し、頭腦を冷かにして資本に富み、性質耐忍にして事務の綜(ソウ)纜に精功なる者ならざる可からず、蓋し是れ千百中の一人にして尋常の人に望む可きにあらず、之を我國大正七、八、九年の蹟に徵すれば思ひ半ばに過ぎん。

之を往時に於て最も著名なる投機熱にして終に大恐慌を惹起せしものは西暦千六百三十四年より三十八年の間に和蘭に於て起りし事件にして、觀賞植物チューリップ投機熱とす、當時此國に於てはチュリップを弄すること大に流行し前記四年の間其價格非常に騰貴し之を買收する者は數日にして數倍の價格を以て販賣することを得非常の利益を得たりしを以て、僧侶男女老幼を問はず其買收に狂奔し、通例其根株は僅々數ペンス其最も珍稀なるものにして尙數シルリングを越へざるに其一種なる『ワイセロイ』と稱するものは一株二百五十フローリンにして、『センベルオークスタス』と稱するものゝ如きは實に一株五千五百フローリンの高價に達し世人をして此草根は同量の金に等しき價格甚しきに至つては其以上の價格を有するものと信ぜしめ非常の投機熱を惹起し、アムステルダム(首府)其他の都市に於て特にチュリップ取引所の開設せらるゝに至れり。而して空商大に行はれ餘波英、佛に及びたり。然れども此の如きは自然の理に反し唯一時の流行熱に屬し、到底永く之を持續する能はず其醒むるに及んで一大恐慌を惹起し、爲めに產を破るもの數ふるに遑あらず、永く世人の記憶に留まり歷史上の話柄となれり。

又西暦千七百廿年に起りたる佛國のミシシッピ計畫英國南海商社の如き皆其實なくして影を捕へんとするものにして、前者の株式の如きは額面價格の四十倍に騰貴し人をして其利害の關係事情の變更を顧るに暇あらしめず、貧富貴賤を問はず其株券を得るを以て唯一の能事とし遠近の都市に蝟集し契約用紙に署名せんとして倚る可き机案に餘地なく實に立錐の隙なき狀況なりき、時に市場を徘徊し平日一飯一錢の惠與を行んに請ふものにして其軀幹腰折傴僂にして世の業務を取ること能はざるの不幸者ありて以て奇貨置くべきの時とし自ら其背面を机案の代用とし之を衆人に使用せしめ、爲めに不測の報酬を得巨大の富を得たる事實あり。以て當時投機熱度の如何を卜するに足れり。後者の場合も亦之に彷彿たり、額面百ポンドの株式漸次騰貴し終に千ポンドとなり、投機の當初より五ヶ月を經九月に至り勢遂に支へず急激の大下落を來し、例產相繼ぎ非常の混亂を起せり當時會社熱の熾なる南海商社の外無數の會社を生じ數日にして其跡を失ふものあり、甚しきに至つては社名を選ぶに苦しみ『有望にして利益ある企圖の爲めに二百万ポンドの募集を爲す、但し其目的等は未來に於て顯はるゝもの』と云ふが如き漠然たる募集公告を爲すに至れり。

當時投機熱の盛なる英國皇太子ウエイルス公殿下と雖も亦是等泡沫會社の一、二に關係せられしと云ふ、實に非常の狂瀾と云ふ可し、既に人の背後を以て机に代用するは人生の道義に反す、況んや東宮儲位の尊を忘るゝの不幸あるに於ては人心の利に奔る甚しい哉、今や我國軍需工業と輸出貿易の盛んなると金融の緩慢より漸く投機熱勃發の曙光を現はす、加ふるに農村の悲況は厘毫の利を爭ふ所、今東京株式取引所に於ける取引高を比較すれば左の如し。

	大正七年	大正八年	大正九年
長期株式賣買高	二五、二四一千株	四〇、八七四千株	三五、七三〇千株
實物株式賣買高	一、九八九千株	五、四五七千株	五、〇四八千株
實物公債賣買高	三二、〇九二、〇〇〇圓	四、四三一、〇〇〇圓	三二、〇一四、〇〇〇圓
實物社債賣買高	七一、〇〇〇圓	一二一、〇〇〇圓	一、五五五、〇〇〇圓

東に相場の高低とを示せば(昭和分は東京株式取引所に照會せるも未だ回答に接せず)

精算取引所相場

	大正七年			大正八年			大正九年			備考
	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	
精算米	四五、〇〇円錢	三三、四〇円錢	三三、五一円錢	五四、三〇円錢	四六、七〇円錢	四六、九〇円錢	五五、三〇円錢	三五、三〇円錢	四四、二七円錢	東京米穀商品取引所定期先物(武州中米一石建)

精算取引表相場

	昭和七年 最高	最低	平均	昭和八年 最高	最低	平均	昭和九年 最高	最低	平均	備考
	円錢	円錢	円錢	円錢	円錢	円錢	円錢	円錢	円錢	
生糸	一六七、七〇	一〇八、〇〇	一四二、九二	三四七、〇〇	一二六、七〇	二二八、七二	四四四、〇〇	一一一、七〇	二二八、七二	横濱生糸取引先物機械太十斤建
綿糸	四三四、九〇	二八八、〇〇	三五一、九二	六九九、〇〇	三〇九、五〇	四五一、九四	六四九、一〇	三三一、一〇	三九八、九二	大阪三品取引所先物太二十番四十五個
綿糸	二九二、〇〇	二二二、〇〇	二四四、〇七	四五四、〇〇	二四四、四〇	三四三、二〇	五七四、〇〇	一八三、〇〇	二五八、〇〇	東京株式取引所全額拂込濟一株價格
王子製紙	一三五、五〇	一〇四、七〇	一二五、六六	一三五、五〇	一〇一、一〇	一〇〇、七五	二五八、〇〇	一六六、一七	七九、六〇	全
大日本麦酒	一四九、八〇	一二九、〇〇	一四〇、一八	二三五、〇〇	一三五、一〇	一六六、二七	一六二、六〇	一三七、六〇	一二六、一一	全
日本石油	一五八、〇〇	一〇〇、四〇	一二一、四二	一二七、九〇	九五、五〇	一二六、一〇	八四、六〇	一三五、一六	全	
日本郵船	三六六、〇〇	一八〇、七〇	二二七、七二	三〇五、九〇	一七九、七〇	二三九、八一	一六五、二一	一六五、〇〇	全	
東京株式	二九九、九〇	一四三、七〇	一九八、二〇	四七九、九〇	一八六、〇〇	三二四、五九	五三〇、一〇	一〇五、〇〇	二二九、四三	全
五分利	九四、五〇	九〇、〇〇	九二、四五	九三、五〇	八六、六〇	八九、九七	八八、三〇	七九、四〇	八三、四八	全現物中値
四分利	八二、三〇	七七、三〇	八一、〇三	八一、八〇	七九、二〇	八一、〇〇	八〇、六五	七六、三〇	七九、〇七	全
合計	二、二〇五、六〇	一、四六〇、二〇	一、九二、〇八	二、〇二五、八〇	一、四八、二〇	二、二五、六六	二、二一、六六	一、七二、八〇	一、八九五、七八	
平均	二〇〇、五〇	一三二、七四	一五六、〇〇	二九五、九八	一三五、三〇	一九七、五二	二九六、九五	一〇六、五三	一七二、三四	

	最高	最低	平均	備考
	円錢	円錢	円錢	
精算米	二九、〇〇	二〇、九二	二五、九六	昭和九年十月廿六日先物二十八圓五十七錢ノ高値ヲ出ス
生糸	一二二、三〇	四〇、一〇	七六、三〇	東京米穀商品取引所定期先物（一石建）
綿糸	二二四、九〇	一二六、一〇	一六五、三〇	横濱市場生糸現物相場（十斤建）
綿糸	二九一、三〇	一九四、〇〇	二三二、九五	大阪三品取引所先物
王子製紙	一二五、一〇	六八、四〇	九〇、七五	東京株式取引金額拂込濟一株價格
大日本麦酒	一二〇、八〇	七六、三〇	九八、六五	全
日本石油	九六、九〇	八三、三〇	九〇、一〇	全
日本郵船	五九、九〇	四五、九〇	五二、一〇	全
東京株式	二五、三〇	二〇、九八	二七、九八	全
五分利	六七、三〇	六二、四〇	六七、四〇	全
四分利	二〇、六〇	一八五、七〇	二〇〇、二〇	全
合計	一、四〇五、六〇	一、二三二、三〇	二三四、〇〇	全
平均	一三七、九〇	一〇九、九一	一二八、七四	全

	東京株式	五分利	四分利	合計	平均	備考
	円錢	円錢	円錢	円錢	円錢	
	二二九、六〇	一二九、二〇	一三三、〇〇	一、四三〇、九〇	一三〇、〇五	全
	九九、〇〇	八五、八〇	一四二、八〇	九九、〇〇	九七、〇三	全現物中値
	九九、〇〇	七四、四〇	一三五、四〇	八五六、四三	七六、〇三	全
	一、四四〇、九〇	一、二三五、五二	一、四四六、四八	一、二三五、五二	一〇二、一三	
	一三〇、五八	一〇四、一〇	一〇四、四〇	九四、六九	九四、九〇	
	一四七、二〇	一〇五、四〇	一三三、四〇	一、〇四三、九九	九四、九〇	
	一四〇、〇〇	一〇五、〇〇	一四〇、〇〇	一、四四〇、三五	一二七、五六	
	一二五、一〇	一〇六、五〇	一二五、一〇	一、二〇九、〇九	一〇九、九一	

備考　本表中九年分は七月迄の分を記載せり

更に大正昭和の三ヶ年間に於ける金融關係を一瞥すれば昭和九年七月迄の現狀を以てすれば軍需品工業と外國貿易關係に於ては大正八、九年の空前の好景氣時代よりも更に良好の度を加へ郵便貯金と國債の激增は特に目立ち各種銀行の預金の增加は銀行業者の資金の運用難に苦しみつゝあるは何か社會的に欠陷を藏して居りはせぬか、手形交換高の少きは信用の萎縮を示し貸付金の比較的增加なきは一般事業の興らざるにはあらざるか、今各年の計數の比較を調査すれば左の如し。

大正七、八、九年財政金融關係總計表

	大正七年	大正八年	大正九年	備考
外國貿易輸出	十九億六千二百萬圓	二十億九千八百萬圓	十九億四千八百萬圓	年末現在
全輸入	十六億六千八百萬圓	二十一億七千三百萬圓	二十三億三千六百萬圓	全
一般會計國庫歲入	十四億七千九百萬圓	十八億八千八百萬圓	二十億	全
全歲出	十億一千七百萬圓	十一億七千二百萬圓	十三億五千九百萬圓	全
國債年末現在高	二十五億二千四百萬圓	二十七億九千三百萬圓	三十一億一千五百萬圓	長野縣地方債千七百萬圓
郵便貯金年末現在高	五億八千九百萬圓	七億三千百萬圓	八億八千三百萬圓	年末現在
日本銀行兌換券發行高	七億五千五百萬圓	九億七千八百萬圓	十一億九千三百萬圓	全
通貨流通高	十三億八千五百萬圓	十八億七千三百萬圓	十六億	全
東京手形交換高	二百二十三億七千六百萬圓	三百五十億九百萬圓	三百二十六億九千百萬圓	全

各種銀行預り金	八十一億三千六百萬圓	九十七億七千七百萬圓	九十六億六千五百萬圓	仝
仝　貸出金	七十七億四千八百萬圓	百億七千七百萬圓	九十九億千六百萬圓	仝
各種銀行證券及預ケ金	三十二億六千四百萬圓	三十四億九千五百萬圓	三十九億六千三百萬圓	仝

備考

1本表及次表の百萬圓以下は切捨てたるものなり

2各種銀行預ケ金大正七年十億四千萬圓、八年八億六千五百萬圓、九年九億八百萬圓

3各種銀行株券社債券大正七年三億五千九百萬圓、八年四億六千二百萬圓、九年五億五千四百萬圓

4日本銀行所有金銀在高大正七年二億四百萬圓、八年二億三千八百萬圓、九年二億五千萬圓

5其他銀行所有金銀在高大正七年五億七千四百萬圓、八年七億六千八百萬圓、九年六億九千七百萬圓

昭和七、八、九年財政金融關係總計表

	昭和七年	昭和八年	昭和九年	備考
外國貿易輸出	十四億九百萬圓	十三億六千百萬圓	十一億八千二百萬圓	七八兩年ハ年末現在
仝　輸入	十四億三千百萬圓	十九億一千七百萬圓	十三億二千八百萬圓	九年ハ七月末現在
一般會計國庫歲入	二十億四千五百萬圓	二十三億九百萬圓	二十一億一千百萬圓	仝
仝　歲出	十九億五千萬圓	二十三億九百萬圓	二十一億一千百萬圓	八、九年ハ豫算
國債年末現在高	六十九億九千九百萬圓	八十一億三千三百萬圓	八十九億八千萬圓	仝
郵便貯金年末現在高	二十七億四百萬圓		二十九億七千萬圓	長野縣地方債三千二百萬圓
日本銀行兌換券發行高	十一億二千六百萬圓	十二億五千八百萬圓	十一億三千九百萬圓	七、八兩年ハ年末現在
通貨流通高	十五億六千二百萬圓	十六億七千八百萬圓	十四億三千八百萬圓	九年ハ六月末現在
東京手形交換高	二百六十五億六千二百萬圓	百五十億三千六百萬圓	百二十八億三千四百萬圓	仝
各種銀行預り金	百十一億六千四百萬圓	百十八億三千三百萬圓	百二十二億五千萬圓	仝
同　貸出金	百八億千六百萬圓	百四億六千六百萬圓	百一億三千九百萬圓	仝
各種銀行證券及預ケ金	六十七億四千二百萬圓	七十四億八千九百萬圓	七十九億七千萬圓	仝

統計蒐集の不能と社會狀勢

人生百般の事業中農業程學術應用の利を受くる難くして重に累年實地の經驗に賴りて事を爲す者はなし、此れ偶然に非ずして自ら然らざるを得ざる道理有り、卽ち蒸氣、電氣、機械、其他人力を代用する諸種精巧の器具も多くは貨物の製造に用ふ可きも天然なる穀草を播殖する上には用ふるを得べからず。農家の用ふる鋤鎌犂の類も時勢の變によりて少しも改良せられず。由來農は大仕掛を要するに非ずして丹念にして拔目なきを要す。例へば麥穗の稍熟するときは其畔間に茄子胡瓜又は蕎麥等を植へ時季を考へ利益を慮り、或は多く作り市場に持ち出すことを主とする者あり、或は僅かに自家用に充つるものあり、其仕事たるや零々碎々にして且つ一年中間斷なく殆んど段落なきものにして所謂晝は爾往(ナンジ)いて茅刈(カヤカ)れ、夜は爾索綯(ナワナ)へとは流石に先哲の一言にして實に農業の正鵠を指したるものにして唯だ夫れ零々碎々にして一味の丹念を要し截然たる段落無きが故に天下の中にて農程博士、紳士の談と相容れず、甚しきに至りては甲地の老農が一日乙地に赴くときは其土地の少女にすら迂拙を笑はるゝを免れず。これ地味の性質風土の具合は一山を越へ一水を涉りて劃然相異ることを往々にして然り、況んや數十百里の遠きを隔つるに於ては萬般の事相異る怪むに足らず。

又凡そ民業を視察するに農事を視察する程其實を得難きものあらず、工商に關係する人々は出入の計算、帳簿の記載等あり其事業狀況を檢するに一目の間に瞭然たるを得べきも農家に至りては然らず、彼等の生計たるや豫め雛形あるに非ずして日一日に經營し去り余り有れば自身も其豊かなるを知り、足らざるを見て始めて其の貧なるを悟り、茫々昏々として歲月を迭迎し家計の豊否は獨り衣食の上に顯はれ來るのみにして始めより簿記有るに非ざれば遊山氣分と云ふが如き氣樂なる事にては到底實を得可からず。

彼れ農民をして其朴訥なる辯舌を以て其愛す可き憐む可き恐る可き警む可き眞情を發せしめんと欲せば高帽を脫せざれば不可なり。外套を脫せざれば不可なり、ステッキや八字髯や隨行官は農民の大禁物となれり。彼れ農夫は此等の怖ろしきものを見るときは決して眞正の報告を爲さざるなり。若し夫れ縣の統計官や調査委員や村長の過半に至つては農民其者に利するにあらずして彼れは唯自身一己の便是れ求むるのみ。

斯くの如く農民は家計簿もなく氣樂になり居る爲め農村對策に關する資料の蒐集は頗る苦心を要する爲め今日の勸業統計なる

ものは信用するに足らざるものがある、十年一日の如き型にはまりたる事務的統計のみで特殊事情を明確にす可き調査資料の欠けて居るので農村政策が一部の策士に乗じられ易いものがある。而かも無理に調査せんとすれば米穀生産費の樣なもので之が爲めに農村救濟資料が採算不能であるから農業は出來ぬ、俸給生活者となりたがる、今農村不況にあるにも係らず農村子弟の上級學校入學志願者の數の激增したかを見て如何に農村が不況に拍車をかけ沒落過程を過ぎつゝあるか特に女學校入學者の多きを注意ありたい。

長野縣各中等學校入學志願者調

（學務課ノ調査ニ依ル）

	入學志願者						
	師範學校	中學校	女學校	甲種實業學校	乙種實業學校	計
大正七年	四一八	一、九〇一	一、四五一	一、四一八	二、四四七	七、六三五
仝八年	三六七	二、一四三	一、九五〇	一、七三九	二、五七七	八、七七六
仝九年	三六二	二、七一四	二、八三八	二、六六二	二、一一四	一〇、六九〇
昭和七年	一、一二四	二、〇〇二	二、六八四	一、四七二	一、一四四	八、四五六
仝八年	八〇二	二、三一〇	二、九七五	一、六八〇	一、三六〇	九、一五八
仝九年	九三二	二、三四七	三、四〇八	一、八二一	一、五三八	一〇、〇七五

更に農村好景氣ゞ不況は警察の事件に如何なる影響があるかを一瞥すれば

	警察職員	檢擧犯罪人	變死及棄兒	自殺者	精神病者	藝妓	娼妓	遊客人員	登記件數
大正七年	一、〇〇〇	一六、七三九	九七六	四四一	八六六	二、九四六	八四〇	五四八、八一六	一八九、九七九
仝八年	九八五	一六、〇八二	九五六	四一六	八五三	二、八二七	八九七	五六五、四九五	一九〇、三三五
仝九年	一、〇四三	一四、〇六四	九三二	四三〇	八四七	二、九二四	七六七	四四五、六一五	一七五、五四六
昭和七年	一、三八二	二〇、〇〇三		三二三	一、九二一	二、三六九	五二九	二〇〇、一一九	二〇三、七六五
仝八年		二四九、三三		四七一					

更に長野縣の負擔狀況を見れば

	一戸當り				滯納額			
	生產額	國稅	縣稅	市町村稅	督促令狀ヲ發シタル者		財產差押ヲナシタルモノ	
					人員	金額	人員	金額
大正七年	一、二六五円	一六、二八円錢	一〇、九一円錢	一九、四九円錢	一、三八九	八三、三〇三円	一三二	八、一三四円
仝八年	一、九三一	二〇、九一	一六、六一	三四、九三	一、二六一	七二、三九〇	一四三	八、四四八
仝九年	一、二三六	二〇、三〇	一八、八九	四〇、六一	二、六一三	六七九、八一八	二七三	二八、〇八〇
昭和七年	六四四	九、三八	一六、六三	二三、三八	九六、〇三一	四一三、一〇八	二三、七四〇	一二三、三一七
仝八年	七七四							

生產額の減少國稅の滯納は土地を抵當として借金を餘儀なくされる今勸業銀行の貸付狀況を見れば

勸業（農工）銀行年賦借主別業態別貸付金調

	農業者		工業者		商業者		其他		計	
	口數	金額	口數	金額	口數	金額	口數	金額	口數	金額
大正七年	七、八三六	三、三三三、三三九円	一一一	一四〇、九九六円	二六〇	四二七、〇九二円	一二八	九三、三二九円	八、三三六	五、九二七、九三六円
仝八年	七、九一二	三、八四一、八六四	一三〇	一四五、一四二、六	三二四	五八九、二八〇	一七八	二六六、八四七	四、八七三、四一七	
仝九年	九、二四九	五、三九八、二〇六	一九八	一七七、五六一	五五八	八〇四、〇三三	二一七	五五九、四一八	九、九四三	六、五八二、二一七
昭和七年	一二、二六六	八、〇三六、八二四	八〇	四六二、〇一二	—	—	一、七八二	六、五二四、一三三	一四、一二八	一四、八一二、九六八
仝八年	一一、八六六	七、五一三、八二五	八二	四五八、一一三	—	—	一、七五一	五、六三二、六九九	一三、六〇四、六三六	
仝九年	一一、七二三	七、三七八、九三三	八四	四三〇、九八三	—	—	一、七四七	五、二一五、九四〇	一三、五五三	一二、九四五、五五五

備考　大正九年迄は長野農工銀行にして昭和五年日本勸業銀行合併

昭和五年六月合併當時の土地建物抵當貸付金は

借主別	口數	金額

		件	円
農業	年賦貸附	二六、二四三	一八、五一〇、七七〇.一八
	定期貸附	八四九	九八九、四四七.〇〇
工業	年賦貸附	三一四	一、二六三、二四九.八九
	定期貸附	一五五	一九六、五八八.〇五
商業	年賦貸附	一、四三八	五、五三九、四二〇.四八
	定期貸附	七三〇	七〇八、五一八.一九
其他	年賦貸附	一、四三一	四、八七六、八六六.二一
	定期貸附	一二一	九八三、一五〇.〇〇
合計	年賦貸附	二九、四二六	三〇、一九〇、三〇六.七六
	定期貸附	一、八五五	二、八七七、七〇三.二四

更に勸業銀行長野支店昭和九年六月迄を見れば、土地抵當の結果は土地の價格に如何なる影響を及ぼしたか、土地賣買價格を見れば

田

	昭和六年 最高平均	昭和六年 最低平均	昭和六年 普通平均	昭和七年 最高平均	昭和七年 最低平均	昭和七年 普通平均	昭和八年 最高平均	昭和八年 最低平均	昭和八年 普通平均
	円 錢	円 錢	円 錢	円 錢	円 錢	円 錢	円 錢	円 錢	円 錢
芹田	四、九六	一、五五	一、九二	三、〇七	一、四五	二、〇八	二、六四	一、三七	一、九〇
古牧	六、六一	九二	一、二二	二、〇七	一、四〇	一、六一	一、六七	一、〇七	一、三八
三輪	五、一九	一、二一	二、三〇	四、五二	一、一一	二、二三	三、七三	一、三四	一、八二
吉田	三、二四	一、七四	二、三二	一、四九	一、〇四	一、三五	二、五一	一、二八	一、五〇
長野	八、九九	一、四二	五、二〇	一一、六六	四、一七	七、七五	一二、五〇	一、五四	五、〇〇
合計	四、八五	一、三〇	二、五八	四、二一	一、七〇	二、七二	三、六五	一、三〇	二、〇二

備考

土地は植物を生育せしむる生産力があり且つ又植物が飼糧となり動物を生育せしむるものであるから其價格は

一、土地の價格は土壤の肥沃度により大なる差等がある

二、自然的位置に表はれ氣候溫度等の氣象上の位置及河川山岳平地等の地理上の位置により等差がある

三、低地平地起伏地傾斜地凸凹地等は何れも比較的の名稱であるが最も良く耕作に適するものは通常南向の平坦地で南傾斜の土地は雨天には充分なる水分を得て忽ちに乾燥して水分の不足を來す急傾斜の土地は水分を吸收することが出來ず豪雨の際表土の肥料分を流失することがあり河岸の農地は洪水の爲めに作物を埋沒し又肥料分を流出して又千曲川沿岸の樣に肥料分を增すこともある、時々氾濫の危險ある河添の土地は堤防工事の爲めに多くの經費を要す

四、土壤の肥沃性は年々掠奪耕作(無肥にて耕作する)により破壞せらるゝも全く生產力なきものとなることなく普通の耕作に依り年々の使用に因つて土壤の壞滅することはない

五、農地は持續財貨又は生產財貨として典型的な堅牢性のあるものとせらる

畑

	昭和六年 最高平均	昭和六年 最低平均	昭和六年 普通平均	昭和七年 最高平均	昭和七年 最低平均	昭和七年 普通平均	昭和八年 最高平均	昭和八年 最低平均	昭和八年 普通平均
	円 錢	円 錢	円 錢	円 錢	円 錢	円 錢	円 錢	円 錢	円 錢
芹田	四、六二	一、二七	二、三八	二、四二	一、四三	一、九一	三、二七	一、一二	一、七四
古牧	二、一二	一、〇六	一、二七	二、二三	一、〇八	一、三八	一、八二	七一	一、〇七
三輪	三、四八	一、二七	二、一九	二、八九	一、五九	二、一五	二、六一	一、〇五	一、八六
吉田	八、一八	一、五六	三、二〇	二、五〇	一、二二	一、八六	二、三〇	二、〇〇	二、一五
長野	一五、七五	一、九二	六、五四	一六、一二	三、一七	四、八七	五、八一	一、五一	三、一二
合計	六、五七	一、三九	三、一〇	五、〇九	一、六九	二、三八	三、四九	一、一七	二、〇一

備考

畑地は社會的經濟的事情に關聯して其價値に高低がある

一、市場との地理的距離及び之を短縮する各種交通機關とにより價格に等差がある

二、畑地少く田地多き等需要供給關係の不均衡により等差がある

三、多年の實驗上耕作物の種類の一定してゐる例へば田地に於ては乾田なるときは畑地として利用し得るも稻作は依然として主要なる

作物であり又經濟的には市街地に侵蝕せられて宅地化するにより等差がある

四、資本勞働を用ひて利用しなければ收益を産み出さない、土地の生産は土地に生産的に作用する資本勞働の働きを通じて始めて完成されるもので斯くして土地の收益は總收入より諸生産に參加した勞働資本に對する適當なる配當を控除した餘剩である、之等の收益は過去及現在を基礎とする將來の永續的收益たることを要す

五、農作物の不變性、或る一定の土地に或る作物を栽培したときは其成熟を俟つて收穫する迄は容易に其作物を他の作物に横ゑ替へることが出來ない、從つて農産物は價格の變動に應じて任意に其種類を變更することは一生産期間内に於ては不可能だ、例へば米が豊穣で生産過剰だから小麥にすることが出來ず藺が安いから畑に他の代作を直ちにすることが出來ない

宅地

	昭和六年 最高平均	昭和六年 最低平均	昭和六年 普通平均	昭和七年 最高平均	昭和七年 最低平均	昭和八年 普通平均	昭和八年 最高平均	昭和八年 最低平均	昭和八年 普通平均
	円錢	円錢	円錢	円錢	円錢	円錢	円錢	円錢	円錢
芹田	一六、九三	四、〇九	四、七三	八、二四	三、八四	五、一九	一一、三六	二、七一	三、五〇
古牧	一一、九五	二、二六	二、六五	一一、六一	二、二二	二、九三	二、五七	二、一二	二、五一
三輪	一二、九二	五、九八	九、〇三	五、八九	三、一八	三、五三	二、九四	二、九四	三、六九
吉田	一九、〇四	七八	一〇、〇〇	三、四四	二、四〇	二、四〇	一一、二五	三、二五	三、二五
長野	一三九、〇七	六、六九	二六、二五	一〇〇、五七	七、六五	一五、〇〇	七九、四六	五、〇〇	二五、〇〇
合計	四二、一九	四、五〇	一〇、二九	二九、三四	四、一七	六、五九	二五、六三	三、七一	八、三三

備考

一、宅地の價格は生活の安定快適の場所として決定せられると共に商店工場等の營業場所として其等差がある

二、投機物として利用せらるゝものもある其價格の上騰を待望し苦しくは良き買手を物色して再び之を轉賣し差額利潤を得んとするもの多少により等差がある

三、自ら生産に從事せずして農地又は賃貸小作料又は地代を取得する目的とする業者の多少により價格に等差がある

之を要するに土地價格は種々なる原因により決定せらるゝものにして前記田畑宅地備考欄に記載したるものは何れの土地にも共通のものにして其價格決定も實買相對のもの等である故に實買價格も登記所の公簿によるより致し方なし之等も登録税の負擔を出來る限り輕減せんとの心理より成る可く實買價格低廉に見積る傾向あり、更に長野市に於ける各字毎の實買價格を表示すれば

字名	昭和六年 最高	昭和六年 最低	昭和六年 普通	字名	昭和六年 最高	昭和六年 最低	昭和六年 普通	字名	昭和六年 最高	昭和六年 最低	昭和六年 普通
	円錢	円錢	円錢		円錢	円錢	円錢		円錢	円錢	円錢
芹田 中御所	二、〇〇	二、八〇	三、二〇	芹田 宮冲	二、〇〇	二、八〇	三、二〇	芹田 宮田	二、〇〇	二、八〇	三、二〇
芹田 川合新田	二、〇三	一、〇七	一、二〇	芹田 村西、北岡	一、〇七	一、〇七	一、二〇	芹田 村前	一、〇七	一、〇七	一、二〇
芹田 若里	二、七九	一、〇〇	一、八〇	芹田 村西	二、〇〇	一、〇〇	一、八〇	芹田 上河原	一、〇〇	一、〇〇	一、八〇
芹田 栗田	三、〇〇	一、〇〇	一、三〇	芹田 西番	一、〇〇	一、〇〇	一、三〇	芹田 中塲	一、〇〇	一、〇〇	一、三〇
芹田 稲葉	二、五五	六四	六四	芹田 八幡田冲	六四	六四	六四	芹田 上千田冲	六四	六四	六四
芹田 高田池	一、五〇	一、〇〇	一、〇〇	芹田 川端	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	芹田 村五分一冲	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
芹田 長和田	一、五八	九七	九七	芹田 南長池	九七	九七	九七	芹田 村前	九七	九七	九七
古牧 東和田	九七	九七	九七	古牧 前田冲	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	古牧 八幡堰	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
古牧 西尾張部	一、五〇	七六	七六	古牧 西和田	七六	七六	七六	古牧 西宮南	七六	七六	七六
古牧 平林	一、五六	一、一九	一、一九	古牧 村南、不門堂西	一、一九	一、一九	一、一九	古牧 神田冲	一、一九	一、一九	一、一九
三輪 三輪	一、三三	一、〇〇	一、〇〇	三輪 樋下冲	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	三輪 相木西	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
三輪 上松	五、〇〇	七六	七六	三輪 瀧前田冲	七六	七六	七六	三輪 仝	七六	七六	七六
三輪 宇木	一、九四	一、四〇	一、四〇	三輪 仝宮田	一、四〇	一、四〇	一、四〇	三輪 仝	一、四〇	一、四〇	一、四〇
三輪 桐原	一、七一	一、七一	一、七一	三輪 仝古野	一、七一	一、七一	一、七一	三輪 仝屋敷	一、七一	一、七一	一、七一
吉田 吉田	四、五五	二、五〇	二、一四	吉田 町南	二、五〇	二、一四	二、一四	吉田 仝田	二、一四	二、一四	二、一四
吉田 太田	二、二四	一、八〇	一、八〇	吉田 中ノ口	一、八〇	一、八〇	一、八〇	吉田 仝北	一、八〇	一、八〇	一、八〇
長野 長野	一六、〇〇	七、八〇	七、八〇	長野 一宮本	七、八〇	七、八〇	七、八〇	長野 村下	七、八〇	七、八〇	七、八〇
長野 南長野	一五、〇〇	三、三〇	三、三〇	長野 里鳥	三、三〇	三、三〇	三、三〇	長野 元屋	三、三〇	三、三〇	三、三〇
長野 西長野	四、四五	九〇	九〇	長野 宮原	九〇	九〇	九〇	長野 鍋屋	九〇	九〇	九〇
長野 鶴賀	八、〇〇	一、五〇	一、五〇	長野 下田	一、五〇	一、五〇	一、五〇	長野 仁田	一、五〇	一、五〇	一、五〇
長野 茂菅	一、五〇	一、五〇	一、五〇	長野 仁河柵	一、五〇	一、五〇	一、五〇	長野 仁柵	一、五〇	一、五〇	一、五〇
合計	一〇六、七〇	二八、七四	五六、八四								
平均	四、八五	一、五〇	二、五八								

字名	所在	昭和八年度	昭和七年度
平合	長	四〇〇〇円	一〇〇〇円
長	古	一〇〇〇	一〇〇〇
古	三	二〇〇〇	一〇〇〇
三	井	二〇〇〇	一〇〇〇
野田	鶴南長	一〇〇〇	一〇〇〇
田	太古	一〇〇〇	一〇〇〇
鶴	中	一〇〇〇	一〇〇〇
鶴	柳字上	一〇〇〇	一〇〇〇
三	平西	一〇〇〇	一〇〇〇
牧	西東	一〇〇〇	一〇〇〇
牧	東長	一〇〇〇	一〇〇〇
高	高	一〇〇〇	一〇〇〇
稲葉田	稲葉	一〇〇〇	一〇〇〇
若川	若	一〇〇〇	一〇〇〇
鶴	川	一〇〇〇	一〇〇〇
中	中	一〇〇〇	一〇〇〇
合	合	一〇〇〇	一〇〇〇
鶴	鶴	一〇〇〇	一〇〇〇
均	計	四〇〇〇円	一〇〇〇円
計	賀	一〇〇〇	一〇〇〇
賀	野	一〇〇〇	一〇〇〇
野	野	一〇〇〇	一〇〇〇
野	田	一〇〇〇	一〇〇〇
田	田	一〇〇〇	一〇〇〇
田	徳	一〇〇〇	一〇〇〇
徳	原	一〇〇〇	一〇〇〇
原	木	一〇〇〇	一〇〇〇
木	松	一〇〇〇	一〇〇〇
松	鶴	一〇〇〇	一〇〇〇
鶴	林	一〇〇〇	一〇〇〇
林	部	一〇〇〇	一〇〇〇
部	田	一〇〇〇	一〇〇〇
田	田	一〇〇〇	一〇〇〇
田	池	一〇〇〇	一〇〇〇
池	田	一〇〇〇	一〇〇〇
田	藤	一〇〇〇	一〇〇〇
藤	田	一〇〇〇	一〇〇〇
田	里	一〇〇〇	一〇〇〇
里	田	一〇〇〇	一〇〇〇
田	所	一〇〇〇	一〇〇〇
合計		三六〇〇円	一〇〇〇円

字名	所在	昭和八年度	昭和七年度
平合	長	四〇〇〇円	一〇〇〇円
長	古	一〇〇〇	一〇〇〇
古	三	二〇〇〇	一〇〇〇
三	井	二〇〇〇	一〇〇〇
野田	鶴南長	一〇〇〇	一〇〇〇
田	太古	一〇〇〇	一〇〇〇
鶴	中	一〇〇〇	一〇〇〇
鶴	柳字上	一〇〇〇	一〇〇〇
三	平西	一〇〇〇	一〇〇〇
牧	西東	一〇〇〇	一〇〇〇
牧	東長	一〇〇〇	一〇〇〇
高	高	一〇〇〇	一〇〇〇
稲葉田	稲葉	一〇〇〇	一〇〇〇
若川	若	一〇〇〇	一〇〇〇
鶴	川	一〇〇〇	一〇〇〇
中	中	一〇〇〇	一〇〇〇
合	合	一〇〇〇	一〇〇〇
鶴	鶴	一〇〇〇	一〇〇〇
均	計	四〇〇〇円	一〇〇〇円
計	賀	一〇〇〇	一〇〇〇
賀	野	一〇〇〇	一〇〇〇
野	野	一〇〇〇	一〇〇〇
野	田	一〇〇〇	一〇〇〇
田	田	一〇〇〇	一〇〇〇
田	徳	一〇〇〇	一〇〇〇
徳	原	一〇〇〇	一〇〇〇
原	木	一〇〇〇	一〇〇〇
木	松	一〇〇〇	一〇〇〇
松	鶴	一〇〇〇	一〇〇〇
鶴	林	一〇〇〇	一〇〇〇
林	部	一〇〇〇	一〇〇〇
部	田	一〇〇〇	一〇〇〇
田	田	一〇〇〇	一〇〇〇
田	池	一〇〇〇	一〇〇〇
池	田	一〇〇〇	一〇〇〇
田	藤	一〇〇〇	一〇〇〇
藤	田	一〇〇〇	一〇〇〇
田	里	一〇〇〇	一〇〇〇
里	田	一〇〇〇	一〇〇〇
田	所	一〇〇〇	一〇〇〇
合計		三六〇〇円	一〇〇〇円

字名	昭和六年度	昭和七年度
平合	六〇〇	一〇〇
長	一〇〇〇	一〇〇〇
吉	一〇〇〇	一〇〇〇
三	一〇〇〇	一〇〇〇
古	一〇〇〇	一〇〇〇
所	一〇〇〇	一〇〇〇
野	一〇〇〇	一〇〇〇
西南長	一〇〇〇	一〇〇〇
長	一〇〇〇	一〇〇〇
長	一〇〇〇	一〇〇〇
田	一〇〇〇	一〇〇〇
吉	一〇〇〇	一〇〇〇
中	一〇〇〇	一〇〇〇
輪	一〇〇〇	一〇〇〇
字上三	一〇〇〇	一〇〇〇
三	一〇〇〇	一〇〇〇
平	一〇〇〇	一〇〇〇
西東長	一〇〇〇	一〇〇〇
尾	一〇〇〇	一〇〇〇
牧	一〇〇〇	一〇〇〇
東長	一〇〇〇	一〇〇〇
高	一〇〇〇	一〇〇〇
稲	一〇〇〇	一〇〇〇
栗	一〇〇〇	一〇〇〇
若	一〇〇〇	一〇〇〇
川	一〇〇〇	一〇〇〇
中	一〇〇〇	一〇〇〇
合	一〇〇〇	一〇〇〇
新	一〇〇〇	一〇〇〇
田	一〇〇〇	一〇〇〇
所	一〇〇〇	一〇〇〇
均	一〇〇〇	一〇〇〇
計	一〇〇〇	一〇〇〇
賀	一〇〇〇	一〇〇〇
野	一〇〇〇	一〇〇〇
野	一〇〇〇	一〇〇〇
野	一〇〇〇	一〇〇〇
田	一〇〇〇	一〇〇〇
鶴	一〇〇〇	一〇〇〇
原	一〇〇〇	一〇〇〇
木	一〇〇〇	一〇〇〇
松	一〇〇〇	一〇〇〇
輪	一〇〇〇	一〇〇〇
林	一〇〇〇	一〇〇〇
部	一〇〇〇	一〇〇〇
田	一〇〇〇	一〇〇〇
池	一〇〇〇	一〇〇〇
田	一〇〇〇	一〇〇〇
業	一〇〇〇	一〇〇〇
田	一〇〇〇	一〇〇〇
里	一〇〇〇	一〇〇〇
田	一〇〇〇	一〇〇〇
所	一〇〇〇	一〇〇〇
合計	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇

畑

字名	昭和六年度	昭和七年度
平合	一〇〇〇	一〇〇〇
長	一〇〇〇	一〇〇〇
三	一〇〇〇	一〇〇〇
古	一〇〇〇	一〇〇〇
野	一〇〇〇	一〇〇〇
西南長	一〇〇〇	一〇〇〇
長	一〇〇〇	一〇〇〇
長	一〇〇〇	一〇〇〇
田	一〇〇〇	一〇〇〇
吉	一〇〇〇	一〇〇〇
中	一〇〇〇	一〇〇〇
輪	一〇〇〇	一〇〇〇
字上三	一〇〇〇	一〇〇〇
三	一〇〇〇	一〇〇〇
平	一〇〇〇	一〇〇〇
西東長	一〇〇〇	一〇〇〇
尾	一〇〇〇	一〇〇〇
牧	一〇〇〇	一〇〇〇
東長	一〇〇〇	一〇〇〇
高	一〇〇〇	一〇〇〇
稲	一〇〇〇	一〇〇〇
栗	一〇〇〇	一〇〇〇
若	一〇〇〇	一〇〇〇
川	一〇〇〇	一〇〇〇
中	一〇〇〇	一〇〇〇
合	一〇〇〇	一〇〇〇
新	一〇〇〇	一〇〇〇
田	一〇〇〇	一〇〇〇
所	一〇〇〇	一〇〇〇
均	一〇〇〇	一〇〇〇
計	一〇〇〇	一〇〇〇
賀	一〇〇〇	一〇〇〇
野	一〇〇〇	一〇〇〇
野	一〇〇〇	一〇〇〇
野	一〇〇〇	一〇〇〇
田	一〇〇〇	一〇〇〇
鶴	一〇〇〇	一〇〇〇
原	一〇〇〇	一〇〇〇
木	一〇〇〇	一〇〇〇
松	一〇〇〇	一〇〇〇
輪	一〇〇〇	一〇〇〇
林	一〇〇〇	一〇〇〇
部	一〇〇〇	一〇〇〇
田	一〇〇〇	一〇〇〇
池	一〇〇〇	一〇〇〇
田	一〇〇〇	一〇〇〇
業	一〇〇〇	一〇〇〇
田	一〇〇〇	一〇〇〇
里	一〇〇〇	一〇〇〇
田	一〇〇〇	一〇〇〇
所	一〇〇〇	一〇〇〇
均	一〇〇〇	一〇〇〇
計	一〇〇〇	一〇〇〇
賀	一〇〇〇	一〇〇〇
野	一〇〇〇	一〇〇〇
野	一〇〇〇	一〇〇〇
野	一〇〇〇	一〇〇〇
田	一〇〇〇	一〇〇〇
鶴	一〇〇〇	一〇〇〇
原	一〇〇〇	一〇〇〇
木	一〇〇〇	一〇〇〇
松	一〇〇〇	一〇〇〇
輪	一〇〇〇	一〇〇〇
林	一〇〇〇	一〇〇〇
部	一〇〇〇	一〇〇〇
田	一〇〇〇	一〇〇〇
池	一〇〇〇	一〇〇〇
田	一〇〇〇	一〇〇〇
業	一〇〇〇	一〇〇〇
田	一〇〇〇	一〇〇〇
里	一〇〇〇	一〇〇〇
田	一〇〇〇	一〇〇〇
所	一〇〇〇	一〇〇〇
均	一〇〇〇	一〇〇〇
計	一〇〇〇	一〇〇〇
賀	一〇〇〇	一〇〇〇
野	一〇〇〇	一〇〇〇
野	一〇〇〇	一〇〇〇
野	一〇〇〇	一〇〇〇
田	一〇〇〇	一〇〇〇
鶴	一〇〇〇	一〇〇〇
原	一〇〇〇	一〇〇〇
木	一〇〇〇	一〇〇〇
松	一〇〇〇	一〇〇〇
輪	一〇〇〇	一〇〇〇
林	一〇〇〇	一〇〇〇
部	一〇〇〇	一〇〇〇
田	一〇〇〇	一〇〇〇
池	一〇〇〇	一〇〇〇
田	一〇〇〇	一〇〇〇
業	一〇〇〇	一〇〇〇
田	一〇〇〇	一〇〇〇
里	一〇〇〇	一〇〇〇
田	一〇〇〇	一〇〇〇
所	一〇〇〇	一〇〇〇
均	一〇〇〇	一〇〇〇
計	一〇〇〇	一〇〇〇
賀	一〇〇〇	一〇〇〇
野	一〇〇〇	一〇〇〇
野	一〇〇〇	一〇〇〇
野	一〇〇〇	一〇〇〇
田	一〇〇〇	一〇〇〇
鶴	一〇〇〇	一〇〇〇
原	一〇〇〇	一〇〇〇
木	一〇〇〇	一〇〇〇
松	一〇〇〇	一〇〇〇
輪	一〇〇〇	一〇〇〇
林	一〇〇〇	一〇〇〇
部	一〇〇〇	一〇〇〇
田	一〇〇〇	一〇〇〇
池	一〇〇〇	一〇〇〇
田	一〇〇〇	一〇〇〇
業	一〇〇〇	一〇〇〇
田	一〇〇〇	一〇〇〇
里	一〇〇〇	一〇〇〇
田	一〇〇〇	一〇〇〇
所	一〇〇〇	一〇〇〇
均	一〇〇〇	一〇〇〇
計	一〇〇〇	一〇〇〇

畑

畑

字名		昭和八年 最高（円 銭）	最低（円 銭）	普通（円 銭）	最高字名	最低字名
芹田	中御所	七、八五	一、五〇	二、五〇	中御所	下河原
	川合新田	一、五〇	一、〇〇	一、一〇	川合新田	古屋敷北
	若里	二、〇〇	六〇	一、三〇	村合	升形島
	栗田	三、〇〇	一、五〇	二、二〇	源田窪	栗田
	稲葉	二、〇〇	一、〇〇	一、六〇	八幡田冲	日詰冲
古牧	高田	二、二四	七二	一、四〇	蓮池	西方
	長池	一、五〇	五〇	一、〇〇	長池田	村東
	東和田	二、二〇	七九	一、〇〇	下越境冲	大道北冲
	西和田	一、三五	八六	九〇	寺東	大道北
三輪	三輪	五、〇〇	一、五〇	三、〇〇	橋場、相木西	横山
	上松	二、四九	九六	一、六〇	地蔵久保	地蔵久保
	桐原	一、八〇	五八	一、六九	古野	古野
	中越	一、一六	一、一六	一、一六	中越	中越
吉田	吉田	二、三〇	二、〇〇	二、一五	塚田	町東
長野	長野	五、〇〇	一、二〇	二、〇〇	屋敷添	北横山
	南長野	八、〇〇	二、〇〇	五、〇〇	上ノ原	前冲
	西長野	五、四四	一、四五	四、〇〇	加茂裏	新スワ南
	鶴賀	一〇、〇〇	二、二九	四、〇〇	居町、澤田	香澤
	茂菅	六四	六四	六四	横棚	横棚
合計		六五、四七	三二、二五	三八、二四		
平均		三、四九	一、一七	二、〇一		

宅地

字名		昭和六年 最高（円 銭）	最低（円 銭）	普通（円 銭）	最高字名	最低字名
芹田	中御所	二〇、〇〇	九、〇四	一〇、〇〇	岡田	堀
	川合新田	二、九〇	二、九〇	二、九〇	北岡	北岡
	若里	八、〇〇	三、〇一	四、〇〇	大道西	村合
	栗田	五〇、七九	二、五三	三、七〇	西番場	西番場
	稲葉	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	日詰冲	日詰冲
古牧	高田	四〇、三一	一、四五	三、〇〇	川端冲	五分一
	長池	二、五〇	二、五〇	二、五〇	屋敷	屋敷
	東和田	二、五〇	二、五〇	二、五〇	居村	居村
	西和田	二、六〇	二、六〇	二、六〇	屋敷	屋敷
吉田	吉田	一九、〇四	七八	一〇、〇〇	武田	塚田
三輪	三輪	二八、一六	三、八五	一五、〇〇	武井	三諸前
	上松	五、〇〇	二、〇〇	三、〇〇	瀧	駒形東平
	宇木	二、六五	二、三〇	二、二五	古宇木	古宇木
	桐原	一五、九〇	一五、九〇	一五、九〇	古野	古野
長野	長野	三五九、〇〇	七、〇九	五〇、〇〇	後町	池田
	南長野	一三二、一〇	八、〇二	二〇、〇〇	新田町	山王
	西長野	二五、一八	一〇、〇〇	一五、〇〇	袖長野	中組
	鶴賀	七〇、〇〇	一、六五	二〇、〇〇	腰巻	腰巻
合計		七五九、五五	八一、〇二	一八五、三五		
平均		四二、一九	四、五〇	一〇、二九		

宅地

平均	芦田	古牧	三輪	吉田	長野	字名	昭和七年 最高	昭和七年 最低	昭和七年 普通	字名 最高	字名 最低
	稲若栗口	高西長平	中上字三	太吉	長西南		円銭	円銭	円銭		
						鐘	三三、三三	四、六二	10、00	栗梨	
						長長	四、六六	四、六六	四、六六	中村	中村
						尾	三、00	三、00	三、00	千	千
						御	三、00	三、00	三、00	田	田
						長	四、00	二、三0	四、00	冲	冲
						長	二、三0	二、三0	二、三0	合	合
						賀	三、三三	二、三三	二、三三	田	田
						野	三、三三	二、三三	三、三三	居	居
						野	三、三0	二、三0	三、三0	高	屋
						田	三、三三	二、三三	三、三三	不	不
						原	三、三三	二、三三	三、三三	寺	寺
						松	三、三0	二、三0	三、三0	中	中
						木	三、三三	二、三三	三、三三	村	村
						輪	六、三0	四、三0	五、三0	栗	栗
						林	三、三三	二、三三	三、三三	梨	梨
						池	三、三0	二、三0	三、三0	駒	駒
						都	三、三三	二、三三	三、三三	本	本
						田	三、三三	二、三三	三、三三	古	古
						所	三、三三	二、三三	三、三三	相	相
						栗	三、三三	二、三三	三、三三	居	居
						里	三、三三	二、三三	三、三三	屋	屋
						田	三、三三	二、三三	三、三三	不	不
						所	三、三三	二、三三	三、三三	寺	寺
						計	三、六0六	三、六六0	三、六三	中	中
						賀	三、六六	三、六	三、六	村	村

宅地（以上語彙中普通とあるは管見の最も多くあるものを示す）

平均	芦田	古牧	三輪	吉田	長野	字名	昭和八年 最高	昭和八年 最低	昭和八年 普通	字名 最高	字名 最低
	稲若栗中	高東長平	中上三字	太吉	長西南		円銭	円銭	円銭		
						鐘	三、三0	二、三0	三、00	宮若栗	宮若栗
						長長	三、00	二、六六	三、00	村下栗	村下栗
						尾	三、三0	二、三0	三、00	千冲里	千冲里
						御	三、00	二、00	三、00	上中栗	上中栗
						長	三、00	二、00	三、00	久保千冲	五分千冲
						和	二、六	二、00	二、00	下南田冲	東一田冲
						田	二、三0	二、三三	二、三三	南西村	南和村
						池	二、00	二、00	二、00	居長	長
						林	二、六0	二、六0	二、六0	武井	池田冲
						輪	三、三三	三、00	三、00	谷冲	谷山冲
						松	三、00	二、三0	二、三0	東冲	東冲
						越	三、三三	三、三三	三、三三	北谷	北谷
						田	二六、0六	三、00	三、00	町東	町東
						田	二、三0	二、三0	二、三0	宮冲	宮冲
						野	二0、三二	六、00	二、六00	大門	理門
						野	三、0三	三、00	四、00	西徳	西徳
						長	二、六六	三、00	二、00	町長	長
						長	六、二四	三、00	二、00	野野	野野
						賀	四三、六六	三三、六六	二四、六	王地	王地
						計	二、六六	三、二	六、三	神入	神入

結論

我國は軍需工業や海外貿易關係或は通貨其他に於て歐洲大戰後の好景氣に似た樣にも見受けられるが其反面國民大多數を占むる農民又は中小商工業は依然として氣息奄々たるものがある物價に平行せざる米價と繭價安に依り窮迫せる農村危局は國家の繁榮に對して確に癌となつて居る之が打開に就ては朝野を擧げて克服に懸命の努力を拂はれつゝある特に昭和七年以後政府は農村救濟の爲めに莫大の費用を投じて居るが一向に其効果が擧らないのみならず益々奈落の底へと其進行を早めて居るのは以上の統計が明かに示して居る。

由來人間の慾望には本能的な生存慾と生殖慾……之等を充足する過程に於ても階段的であり且つ同時に數多の慾望が併存して充され得る其關係は甚だ複雜であつて重要緊切な一つの慾望が或る程度迄充足されると又次の慾望が頭を擡げる斯樣にして數多の慾望は相併存し同時に相結合して補ひ合ふ性質のものである而して慾望充足の爲めには出來る限り苦痛な勞働を厭ふは人間の本能である夫れも苦痛な勞働に伴ふ報酬があれば問題がない若し斯樣な場合に其報酬が其生存人生の生命を維持することが出來ないとすれば其生命の安全を期せしめることも亦當然なことである政府の匡救事業も斯くの如き見地から出發されて補助助成補給等の形式で國費が支出せられて居る其他種々農村救濟の施設はあるが其効果のないことは此統計でも判かる

最近陸軍省に於かれては農村の窮乏特に長野縣の繭安、米價高農家窮乏を見るに忍びずとせられ軍需品として大麥の一万石の大量購入があつた然るに長野縣聯合購買組合や縣農會が斡旋したに係らず豫定の購入が出來なかつた之は購買組合や農會の罪でなく農民の心理……生存慾が天候不順米價高等の關係で『より高く』販賣したい心理からである『一厘でも安ければ買い度』『高ければ賣れぬ』のは當然で慈善救濟で人を雇ふものもなく物品も買ふものもなく夫れも一時の塲合であるなら兎に角永續出來るものでない之は國家として同樣の結論に到達する現に陸軍省の軍需品の購入品は憲法附屬の法典會計法の除外例を設けて特に農村救濟の爲めになるも豫算額には制限がある

『法はたとへ惡法と云へども法なり』 とは歐洲に行はれた法諺である之は人民に法規の嚴に遵守すべきことを訓へて居る反面に立法の局に當るものは惡法を作り人民に迷惑を與へぬ樣深刻な訓戒を示したもので國民として法を遵守する義務あるは勿論

其人民の習慣風俗に適しない法を制定して其遵法を强制することは避けなければならぬ若し其國柄に反し習俗に適せぬ法が制定せられた塲合には遵法せぬ者の出來るのも止むを得ない斯樣な法は實施の前後を問はず非を發見するならば改廢す可きである今日の立憲政治下に於ては議會の議決を經ずして所謂惡法のあることは全然ないが愼重審議の足りなかつた結果として國柄に反し習慣に適せぬ法が絶對に成立せぬとは限らぬ既に一旦御裁可を經て公布せられたものであつても後に至り其不當な點を發見した塲合は改廢せぬばならぬのは當然なことで之が社會國家の秩序維持に最も必要な事柄であることを考察する故に我國は勸業對策特に農村對策に就いては總てを放棄して以て國民の生産能力を充分發揮せしむる政策を採るのでなければ國家社會の秩序は維持頗る困難なることを痛感する。

本論の結論として長野市の交通用具の累年比較表を擧げる

年次	自動車乘用	自動車自用	自動車營業	荷車	荷臺車	片馬車乘用	片馬車荷用	人力車
大正十一年	四	一	七	一、二八三	—	四	四四	二八九
仝十二年	三	一	五	一、三三三	—	四	四九	二七六
仝十三年	五	二	一四	二、七八六	—	四	六〇	三三五
仝十四年	九	一〇	三八	二、七七四	—	四	七八	三〇二
昭和元年	一五	二	五五	二、七七〇	—	一	七八	二八五
仝二年	二三	二四	四五	二、六八九	九六五	—	七二	二五五
仝三年	五三	五八	五八	二、八六五	一、三二七	—	七八	二〇五
仝四年	七六	四一	二八	二、三四八	一、六〇六	—	七四	二〇二
仝五年	七三	三八	二六	二、一九九	一、九一〇	—	七二	一六五
仝六年	七一	三四	二八	一、九八八	二、〇九四	—	七二	九三
仝七年	七五	三六	三〇	一、七〇〇	二、二七〇	—	六六	六六
仝八年	七九	三五	三八	一、五〇〇	二、五〇〇	—	六二	六二

米價と賃銀

年次	物價指數（穀年度）	賃銀指數	米價指數（穀年度）	米價（穀年度）	收穫高（單位千石）	米穀政策	社會情勢
大正元年	一〇三	九九	一一三	二〇、一五円	五〇、二三三	一、米及粃の輸入稅低減（每百千一圓を四十錢に）二、正米市場の延期引取禁止 三、鐵道運賃特別割引 四、取引所受渡米に台鮮米代用	物價騰貴、外國貿易入超、物價調節擔頭す、明治天皇崩御大正天皇踐祚 七月三十日以後大正元年と改めらる、米價暴騰し細民窮乏を告げ、外米を買出す、臨時議會召集、桂內閣成立、仲小路農相となる
二年	一〇三	一〇〇、九	一一三	二一、五八	五〇、二五九	一、取引所受渡米に台鮮米の代用廢止 二、朝鮮米の移入稅廢止	山本內閣成立し、東京市內に暴動起り新聞社、巡査交番所等焼打さる、行政整理行はる、對支問題に關し外務省政務局長阿部太郎兒漢に刺さる、南京事件、台灣革命的陰謀事件判決立憲同志會結黨式加藤高明總理となる
三年	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一七、三九	五七、〇〇七	一、米穀調節令の公布 二、內地米の買入約三〇二、一六三石 三、內地米の賣却約一四、〇〇〇石 四、田租の提出	七月二十八日歐洲大戰勃發、シーメンス事件、海軍要路の收賄、山本內閣潰落、正貨流出盛に金融梗塞、日比谷公園に國民大會開かれ群衆議院に迫り軍隊の出動をみる、大隈內閣生る、對獨宣戰詔勅下る、東京驛開場
四年	九七	一〇〇、一	七四	一三、〇三	五五、九三四	一、米穀調節令の公布 二、內地米の買入約三〇二、一六三石 三、內地米の賣却約一四、〇〇〇石 四、田租の米價調節調査會の設置 五、米價下	一、政府米の交換却約九〇、〇〇〇石 二、內地米の賣却 三、經濟調査會の設置
五年	一一六	一〇五	七五	一三、二二	五八、四五三		
六年	一四五	一二二	一〇五	一八、五七	五四、五六七	一、法の制定 三、暴利取締令の公布	一、暴利取締令の適用 二、農業倉庫業法並米穀需給調節特別會計
七年	一九〇	一六一	一六九	三〇、〇一	五四、七〇〇	一、小麥粉の輸出制限 二、米麥及米穀の渡米代用範圍の擴張 三、取引所受渡の停止 四、取引所管理令の公布 五、外米の買入 六、外國米の買入 七、台鮮米の買入 八、外米の賣却 九、台鮮米の賣却 十、小口落の禁止 十一、米穀物收用令の公布 十二、內地米の買入稅免除	米價暴落、米騷動起る、富山縣滑川町の米騷動を起点として漸次全國に蔓延す、穀物收用令公布、シベリヤ出兵決定、原內閣成立、歐洲大戰後休戰條約成立、
八年	一三〇	一二一	一四九	四三、八九	六〇、八一八	一、開墾助成法の制定 二、米麥その他主要食糧農產物の改良增殖奬勵規則の公布 三、麥類の輸入稅免除 四、取引所に合灣米及外國米の買入 五、外國米の賣却 七、節米奬勵 八、米穀に對する鐵道運賃減免期間 九、米穀及雜穀の輸入稅減免の延長	米價五十圓を突破する爆發値段、流行性感冒全國に蔓延す、東京活版職工ストライキ、都下新聞全部休刊四日に及ぶ、日立鑛山ストライキ、足尾鑛夫ストライキ、神戸川崎造船所總怠業、國際勞働會議第一回代表出發
九年	二四九	二八八	二七五	四八、五六	六三、二〇八	一、版米穀國米の賣却	三月株式市場の大恐慌、成金熱の冷却、財界不況甚し、失業者增、八幡製鐵所大罷業、東京市電ストライキ、第一回メーデー擧行、內務省に社會局をおく、尼港事件
十年	二〇四	二八七	一六七	二九、一〇	五五、一八〇	一、米穀法並米穀需給調節特別會計の制定 二、農商務省官制を改正し食糧局新設 三、米穀委員會の設置 四、內地米百萬石の買入及輸入稅の免除 五、米十萬石の買入 六、內地米の賣却 七、外國米の賣却	米價引下政策を供給引上政策に轉換、原首相暗殺さる、高橋內閣成立す、借地借家法公布、郡制廢止、大阪石井定吉の買占により定期取引禁止

七年	六年	五年	四年	三年
一、米穀及法價改變ノ中ノ内地買入米五十萬石、米三百萬石、麦料穀ノ買入ノ為メ三千貫ノ資金ヲ政府ニ貸付ス 二、地方費ノ負担ニ対シ賦課金ヲ徴収スル事ヲ得ス 三、地方費ノ負担ニ対シ賦課金ヲ徴収スル事ヲ得ス 四、地方費ノ負担ニ対シ賦課金ヲ徴収スル事ヲ得ス 五、地方費ノ負担ニ対シ賦課金ヲ徴収スル事ヲ得ス 六、地方費ノ負担ニ対シ賦課金ヲ徴収スル事ヲ得ス 七、地方費ノ負担ニ対シ賦課金ヲ徴収スル事ヲ得ス 八、地方費ノ負担ニ対シ賦課金ヲ徴収スル事ヲ得ス 九、地方費ノ負担ニ対シ賦課金ヲ徴収スル事ヲ得ス 十、地方費ノ負担ニ対シ賦課金ヲ徴収スル事ヲ得ス	一、米穀及法價改變ノ中ノ内地買入米五十萬石、麦三百萬石、麦料穀ノ買入ノ為メ三千貫ノ資金ヲ政府ニ貸付ス 二、地方費ノ負担ニ対シ賦課金ヲ徴収スル事ヲ得ス 三、地方費ノ負担ニ対シ賦課金ヲ徴収スル事ヲ得ス 四、地方費ノ負担ニ対シ賦課金ヲ徴収スル事ヲ得ス 五、地方費ノ負担ニ対シ賦課金ヲ徴収スル事ヲ得ス 六、地方費ノ負担ニ対シ賦課金ヲ徴収スル事ヲ得ス 七、地方費ノ負担ニ対シ賦課金ヲ徴収スル事ヲ得ス 八、地方費ノ負担ニ対シ賦課金ヲ徴収スル事ヲ得ス 九、地方費ノ負担ニ対シ賦課金ヲ徴収スル事ヲ得ス 十、地方費ノ負担ニ対シ賦課金ヲ徴収スル事ヲ得ス	一、三千萬石ノ米穀ノ買入ノ為メ三千貫ノ資金ヲ政府ニ貸付ス 二、地方費ノ負担ニ対シ賦課金ヲ徴収スル事ヲ得ス 三、地方費ノ負担ニ対シ賦課金ヲ徴収スル事ヲ得ス 四、地方費ノ負担ニ対シ賦課金ヲ徴収スル事ヲ得ス 五、地方費ノ負担ニ対シ賦課金ヲ徴収スル事ヲ得ス 六、地方費ノ負担ニ対シ賦課金ヲ徴収スル事ヲ得ス 七、地方費ノ負担ニ対シ賦課金ヲ徴収スル事ヲ得ス 八、地方費ノ負担ニ対シ賦課金ヲ徴収スル事ヲ得ス 九、地方費ノ負担ニ対シ賦課金ヲ徴収スル事ヲ得ス 十、地方費ノ負担ニ対シ賦課金ヲ徴収スル事ヲ得ス	一、四萬石ノ米穀及法價ノ改変ノ為メ三千貫ノ資金ヲ政府ニ貸付ス 二、地方費ノ負担ニ対シ賦課金ヲ徴収スル事ヲ得ス 三、地方費ノ負担ニ対シ賦課金ヲ徴収スル事ヲ得ス 四、地方費ノ負担ニ対シ賦課金ヲ徴収スル事ヲ得ス 五、地方費ノ負担ニ対シ賦課金ヲ徴収スル事ヲ得ス 六、地方費ノ負担ニ対シ賦課金ヲ徴収スル事ヲ得ス 七、地方費ノ負担ニ対シ賦課金ヲ徴収スル事ヲ得ス 八、地方費ノ負担ニ対シ賦課金ヲ徴収スル事ヲ得ス 九、地方費ノ負担ニ対シ賦課金ヲ徴収スル事ヲ得ス 十、地方費ノ負担ニ対シ賦課金ヲ徴収スル事ヲ得ス	一、米穀及法價改変ノ中ノ内地買入米五十萬石、麦三百萬石、麦料穀ノ買入ノ為メ三千貫ノ資金ヲ政府ニ貸付ス 二、地方費ノ負担ニ対シ賦課金ヲ徴収スル事ヲ得ス 三、地方費ノ負担ニ対シ賦課金ヲ徴収スル事ヲ得ス 四、地方費ノ負担ニ対シ賦課金ヲ徴収スル事ヲ得ス 五、地方費ノ負担ニ対シ賦課金ヲ徴収スル事ヲ得ス 六、地方費ノ負担ニ対シ賦課金ヲ徴収スル事ヲ得ス 七、地方費ノ負担ニ対シ賦課金ヲ徴収スル事ヲ得ス 八、地方費ノ負担ニ対シ賦課金ヲ徴収スル事ヲ得ス 九、地方費ノ負担ニ対シ賦課金ヲ徴収スル事ヲ得ス 十、地方費ノ負担ニ対シ賦課金ヲ徴収スル事ヲ得ス	一、米穀及法價改変ノ中ノ内地買入米五十萬石、麦三百萬石、麦料穀ノ買入ノ為メ三千貫ノ資金ヲ政府ニ貸付ス 二、地方費ノ負担ニ対シ賦課金ヲ徴収スル事ヲ得ス 三、地方費ノ負担ニ対シ賦課金ヲ徴収スル事ヲ得ス 四、地方費ノ負担ニ対シ賦課金ヲ徴収スル事ヲ得ス 五、地方費ノ負担ニ対シ賦課金ヲ徴収スル事ヲ得ス 六、地方費ノ負担ニ対シ賦課金ヲ徴収スル事ヲ得ス 七、地方費ノ負担ニ対シ賦課金ヲ徴収スル事ヲ得ス 八、地方費ノ負担ニ対シ賦課金ヲ徴収スル事ヲ得ス 九、地方費ノ負担ニ対シ賦課金ヲ徴収スル事ヲ得ス 十、地方費ノ負担ニ対シ賦課金ヲ徴収スル事ヲ得ス

八年		三三、三〇	七〇、八四七
九年		三二、三五四	六、米穀統制法の制定 七、米穀需給調節特別會計法の改正 八、朝鮮米の買却 九、内地産米百萬石の買換 十、朝鮮米の實收多きは統計要式改正に依り從前の要式に依れば六千五六百萬石ならん

一、米價暴騰に鑑み穀貯藏解除各地方長官に通牒
二、四月二十四日米穀生産費調査會成立
三、八月七日米價抑制のため政府米拂下、農林大臣米價の無高を認む
四、内地、朝鮮を通じて百萬石入札賣却
五、米穀自治的統制農民の調節機關創設農相案の作成命ず
六、昭和九年九月二十九日米穀對策委員會設置さる
一、新米相場は越中水嶋三等卅二圓千葉農林四等廿九圓六七十錢野州各驛四等廿八圓六十錢越後三等十月上旬廿九圓三四十錢と奔騰した
二、秋田農業倉庫の平均賣り正米相場は古米で仙北四等卅圓七十錢地廻は米で卅一圓廿錢能代四等卅一圓九十錢と新米五十錢本莊四等卅一圓九十錢と高値に躍進した

第二回豫想收穫高五七、〇〇二千石
九月二十一日風害減收豫想四六七千石
其他冷氣雨天等に依り、實收五千萬石内外と豫想せらる

一、財界インフレの好轉により十年度自然增收二億を豫想さる
二、補償青淸算生糸取引所に支那糸伊太利糸上海定欵改正我輸出業者成行視三、ひ總辭
四、齋藤岡田内閣の啓介内閣成立
五、國民生活安定を主眼とする紀元節
四日首相全國官吏に官紀振肅と
五、行政刷新に關し訓示
六、十二日北陸三、七月十七日
十年來の洪水農作物被害甚大
十六日桑港に總罷業始まる
罷業參加員十萬七千人に及ぶ
八、三井義金二人
九、八月一日農村工業化奬勵
萬圓農會最初の事業として百萬圓を投じ
ラジウムを購入癌治療に一大光明をもたらす、夏秋蝗救濟の爲め三百萬圓
十、九月一日東京市電赤字豫備金支出
八百六十萬圓克服の爲め從業員給與
銀値下再採用と云ふ未曾有の大整理を斷行

新舊給料の比較

職名別	現在月收平均	今後月收平均	減率%
電車運轉手	一〇五、六九錢	五八、二四錢	四四・五
電車掌	一〇八、〇〇	五五、八六	四五・五
信號手	一〇六、七八	五五、八六	四八・八
自動車掌	一〇六、七八	四四、二四	三九・八
自動車運轉手	一〇八、四一	五八、四一	四六・二
電燈職人	一〇八、六一	六九、一九	三六・六
	一〇八、八三	五一、六六	增六三・一

（備考）一、物價指數賃銀指數及米價指數は明治三十三年を一〇〇とする日銀調査指數を基準として算出せるもの
二、米價は東京深川正米市場の内地玄米中米標準相場（一石建）による
一、收穫高は農林省統計課の發表（各道府縣の報告）に依る

以上の調査は内閣資源局發行『資源』第三卷第三號所載『米價と賃銀』にして九年分は當所に於て附加したるものなり

二日東京市從業員組合東交支部罷業準備指令を發す
十四日閣議に於て正式決定せる在滿政治機構改組案の爲關東廳職員一萬餘名辭表提出前古未曾有の大不祥事なり
十六日藤沼警視總監强制調停を申渡し罷業中止
二十一日世界的犯錄破りの颱風襲來關西地方特に甚し死傷一万數千人損害十億、米穀に農作物被害甚し

民貧なれば則ち姦智生じ、姦智生ずれば則ち邪巧作る

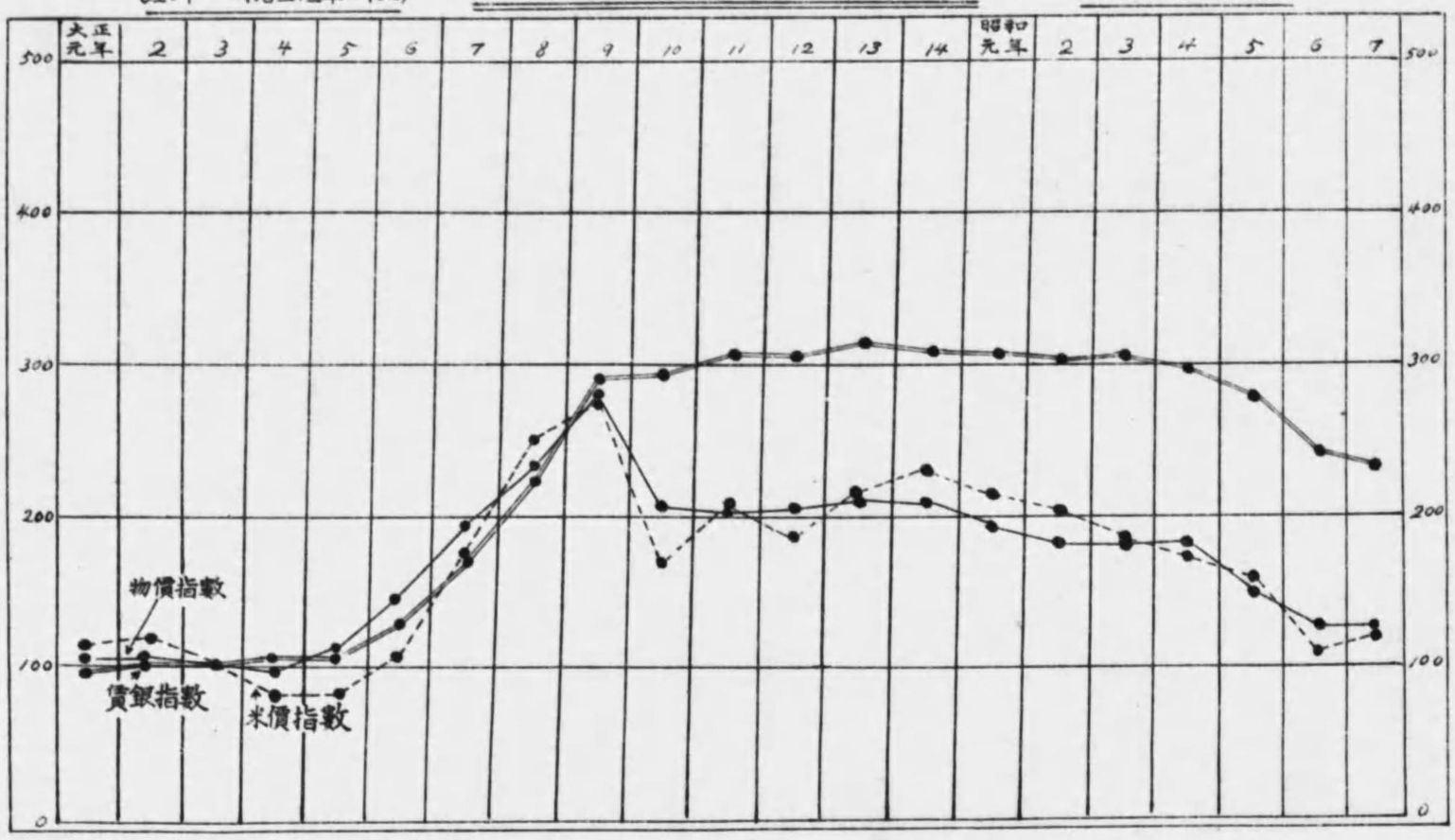
倉廩實れば則ち禮節を知り衣食足れば則ち榮辱を知る

管子

賃銀指數・物價指數・米價指數

日銀調査指數

(基準＝明治三十三年＝100)



昭和九年十月四日印刷
昭和九年十月五日發行（非賣品）

發行所　長野市職業紹介所

印刷人　長野市縣町　宮澤秀夫

印刷所　長野市縣町　信濃日日新聞活版石版部

終